事故データ・事例集

平成 29 年 1 月

National Institution For Youth Education
独立行政法人 国立青少年教育振興機構

目　次

はじめに　・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4

Ⅰ．傷病状況

１．施設屋内における傷病状況

（１）活動内容別傷病件数　・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6

（２）傷病別件数　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9

２．施設屋外における傷病状況

（１）活動内容別傷病件数　・・・・・・・・・・・・・・・・・ 15

（２）傷病別件数　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 18

Ⅱ．事例紹介　【対象年度：平成２６年度、平成２７年度】

１．屋内活動での事故

ガラスの破片で切り傷　・・・・・・・・・・・・・・・・・ 26

そば団子を食べ呼吸困難　・・・・・・・・・・・・・・・・ 27

浴室で熱湯をかけられ火傷　・・・・・・・・・・・・・・ 28

ベッドの上に立ち上がり棚に激突　・・・・・・・・・・・・・ 29

児童及び教員が感染性胃腸炎を発症　・・・・・・・・・・・ 30

焼板クラフトの煙を吸入し、じんましんとかゆみを発症　・・・ 31

屋内でマダニにかまれる　・・・・・・・・・・・・・・・・ 32

室内で楽器練習中に熱中症　・・・・・・・・・・・・・・・ 33

２．屋外活動での事故

沢登り中転落し骨折　・・・・・・・・・・・・・・・・　36

町内ウォークラリー中に蜂刺され　・・・・・・・・・・・　37

サイクリング中に自動車と接触　・・・・・・・・・・・・・・　38

投げた輪を追い斜面で転倒　・・・・・・・・・・・・・・　39

蹴った石が落下し２人外傷　・・・・・・・・・・・・・・・・　40

下山中に迷子　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　41

スノーケリング中に岩場で脚を切る　・・・・・・・・・・・・　42

トイレ清掃時にマムシにかまれる　・・・・・・・・・・・・　43

斧先が外れ手に当たり挫創　・・・・・・・・・・・・・・・・　44

そりすべりで衝突・転倒、左手強打　・・・・・・・・・・・　45

Ⅲ．資料

平成２７年度　傷病発生状況一覧表　・・・・・・・・・・・・・　48

はじめに

国立青少年教育振興機構は、「体験活動を通した青少年の自立」を目指して、全国 28 の青少年教育施設において、それぞれの立地条件を活かした特色のある活動を展開し、生きる力の育成に必要な自然体験活動、集団宿泊活動をはじめ、多様な体験活動の機会の提供に努めています。

青少年教育施設においては、青少年の自然体験等の体験活動を意図的・計画的に実行し、安全に配慮したプログラムを企画・実施することにより、体験活動の機会をより多くの青少年に提供することが求められているところですが、残念なことに、例年、体験活動中の事故や傷病等が発生しております。

そこで、事故等の再発防止に寄与するため、当機構の「国立青少年交流の家」、「国立青少年自然の家」において平成２７年度に発生した利用者の傷病件数を、活動内容別及び傷病別に集計し、比較した表を作成しました。
併せて、平成２６年度から平成２７年度までに発生した傷病事例から、危険度が高い、又は発生頻度が高いと思われる事故事例について、その概要、原因及び改善策についてとりまとめました。

本事例集が青少年教育施設の管理運営に携わる方々や青少年の引率指導に当たる方々の参考となれば幸いです。

Ⅰ. 傷病状況

本データは、国立青少年教育振興機構の 27 教育施設（国立オリンピック記念青少年総合センターを除く)を対象に、平成 27 年度に発生した傷病についてまとめたものである。各教育施設の保健室等利用件数、医療機関の利用者数及び保健カード(利用者が健康面に関する相談等をした際に記入)をもとに集計した。

データの対象となる 27 教育施設の平成 27 年度総利用者数は約 310 万人であり、同年度に発生した総傷病数は 3,763 件であった。

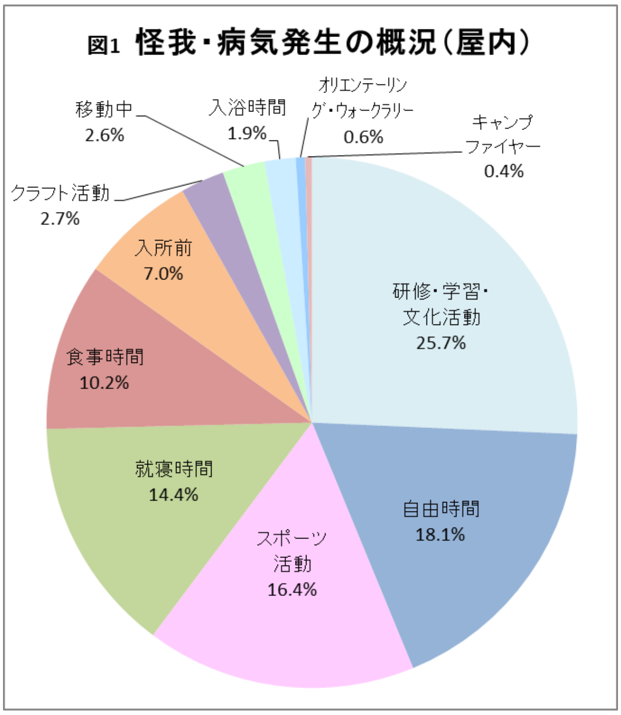
１．施設屋内における傷病状況

（１）活動内容別傷病件数

①傷病件数の比較

平成 27 年度施設屋内における傷病件数は、2,265 件であった。

そのうち、傷病又は活動内容が「不明」等の項目を除いた 1,946 件について活動内容別に傷病件数を集計した結果は、研修・学習・文化活動が 500 件（25.7%）、自由時間が 352 件（18.1%）、スポーツ活動が 320 件（16.4%）、就寝時間が 280 件（14.4%）であり、上位 4 種類の活動内容が全体の 74.6%を占めている（図 1、表 1）。



■表１ 怪我・病気発生の概況（屋内）

	活動内容	H25		H26		H27	
		件数	割合	件数	割合	件数	割合
1	研修・学習・文化活動	364	21.4%	417	22.4%	500	25.7%
2	自由時間	213	12.5%	386	20.8%	352	18.1%
3	スポーツ活動	261	15.4%	281	15.1%	320	16.4%
4	就寝時間	372	21.9%	266	14.3%	280	14.4%
5	食事時間	164	9.7%	203	10.9%	199	10.2%
6	入所前	154	9.1%	143	7.7%	137	7.0%
7	クラフト活動	71	4.2%	51	2.7%	52	2.7%
8	移動中	29	1.7%	48	2.6%	50	2.6%
9	入浴時間	32	1.9%	34	1.8%	37	1.9%
10	オリエンテーリング・ウォークラリー	27	1.6%	19	1.0%	11	0.6%
11	キャンプファイヤー	11	0.6%	11	0.6%	8	0.4%
	合計	1,698	－	1,859	－	1,946	－

②主要な屋内活動内容における外科系傷病件数

傷病件数の多かった上位 4 種類の活動内容について、外科系傷病の件数に着目し集計した（表 2～表 5）。

上位 4 種類の傷病については、すべて「捻挫打撲」が最多となっている。この他に件数の多い傷病は、研修・学習・文化活動においては、「鼻血」、「眼科系」、自由時間においては、「切り傷」、「生物系」、スポーツ活動においては、「突き指」、「切り傷」、就寝時間においては、「生物系」、「眼科系」の順となっている。

■表2　研修･学習･文化活動

外科系	件数		
	H25	H26	H27
捻挫打撲	11 件	17 件	16 件
鼻血	8 件	9 件	10 件
眼科系	／	3 件	4 件
筋肉疲労	0 件	4 件	3 件
擦過傷	6 件	3 件	3 件
生物系	2 件	13 件	2 件
皮膚科系	2 件	3 件	2 件
切り傷	5 件	2 件	2 件
火傷	7 件	2 件	1 件
骨折	2 件	2 件	1 件
靭帯系	1 件	0 件	1 件
とげ	2 件	1 件	0 件
突き指	0 件	1 件	0 件
脱臼	0 件	0 件	0 件
上記以外の痛み	／	4 件	0 件
合計	46 件	64 件	45 件

■表3　自由時間

外科系	件数		
	H25	H26	H27
捻挫打撲	22 件	39 件	28 件
切り傷	9 件	24 件	15 件
生物系	1 件	4 件	13 件
擦過傷	2 件	7 件	9 件
皮膚科系	2 件	3 件	8 件
骨折	5 件	7 件	6 件
突き指	2 件	4 件	5 件
眼科系	／	8 件	3 件
とげ	0 件	1 件	3 件
鼻血	1 件	7 件	1 件
火傷	0 件	2 件	1 件
筋肉疲労	0 件	2 件	1 件
脱臼	1 件	0 件	1 件
靭帯系	0 件	4 件	0 件
上記以外の痛み	／	3 件	0 件
合計	45 件	115 件	94 件

■表4　スポーツ活動

外科系	件数		
	H25	H26	H27
捻挫打撲	71 件	69 件	78 件
突き指	12 件	14 件	11 件
切り傷	12 件	9 件	10 件
靭帯系	9 件	11 件	9 件
骨折	9 件	8 件	9 件
擦過傷	10 件	9 件	7 件
生物系	9 件	3 件	6 件
脱臼	2 件	4 件	5 件
筋肉疲労	4 件	12 件	2 件
鼻血	3 件	3 件	2 件
皮膚科系	1 件	1 件	2 件
眼科系	／	4 件	1 件
火傷	0 件	0 件	1 件
とげ	0 件	0 件	0 件
上記以外の痛み	／	18 件	8 件
合計	142 件	165 件	151 件

■表5　就寝時間

外科系	件数		
	H25	H26	H27
捻挫打撲	8 件	4 件	13 件
生物系	3 件	12 件	13 件
眼科系	／	3 件	4 件
皮膚科系	1 件	2 件	3 件
鼻血	4 件	4 件	2 件
骨折	3 件	1 件	2 件
切り傷	2 件	0 件	1 件
筋肉疲労	1 件	0 件	1 件
擦過傷	1 件	0 件	1 件
脱臼	1 件	0 件	0 件
突き指	0 件	1 件	0 件
靭帯系	0 件	1 件	0 件
とげ	0 件	0 件	0 件
火傷	0 件	0 件	0 件
上記以外の痛み	／	1 件	1 件
合計	24 件	29 件	41 件

注 1 :「眼科系」、「上記以外の痛み」は、平成 26 年度より追加した集計項目である。
注 2 :「生物系」とは、虫刺され等、生物との接触を起因とする傷病である。

③主要な屋内活動における内科系傷病件数

傷病件数の多かった上位 4 種類の活動内容について、内科系傷病の件数に着目し集計した。（表 6 ～表 9）。内科系の傷病件数は、外科系傷病件数の約 3.4 倍と非常に多くなっている。

上位 4 種類の活動すべてにおいて、「感冒」が最多となっている。この他に件数が多い傷病は、研修・学習・文化活動においては「頭痛」、「体調不良」、自由時間においては「頭痛」、「腹痛」、スポーツ活動においては「頭痛」、「体調不良」、就寝時間においては「嘔吐」、「頭痛」の順となっている。

■表6 研修・学習・文化活動

内科系	件数		
	H25	H26	H27
感冒	113 件	106 件	138 件
頭痛	66 件	56 件	78 件
体調不良	27 件	28 件	71 件
腹痛	46 件	48 件	50 件
吐き気		33 件	34 件
平均障害	14 件	10 件	20 件
嘔吐	15 件	16 件	16 件
熱中・脱水	5 件	8 件	11 件
生理痛	7 件	14 件	10 件
アレルギー	3 件	1 件	6 件
感染症	5 件	4 件	5 件
呼吸系の発作	10 件	15 件	3 件
喘息	3 件	7 件	3 件
下痢	1 件	0 件	3 件
痙攣症状	1 件	1 件	2 件
精神疾患		2 件	2 件
乗り物酔	2 件	1 件	0 件
上記以外の痛み		3 件	3 件
合計	318 件	353 件	455 件

■表7 自由時間

内科系	件数		
	H25	H26	H27
感冒	71 件	122 件	108 件
頭痛	14 件	38 件	35 件
腹痛	24 件	26 件	33 件
嘔吐	20 件	28 件	31 件
体調不良	13 件	7 件	15 件
吐き気		11 件	15 件
平均障害	2 件	5 件	5 件
喘息	4 件	4 件	4 件
熱中・脱水	1 件	4 件	3 件
感染症	16 件	14 件	3 件
アレルギー	1 件	3 件	2 件
呼吸系の発作	0 件	1 件	2 件
生理痛	0 件	5 件	1 件
痙攣症状	1 件	1 件	1 件
下痢	1 件	1 件	0 件
精神疾患		1 件	0 件
乗り物酔	0 件	0 件	0 件
上記以外の痛み		0 件	0 件
合計	168 件	271 件	258 件

■表8 スポーツ活動

内科系	件数		
	H25	H26	H27
感冒	33 件	27 件	51 件
頭痛	26 件	24 件	33 件
体調不良	9 件	9 件	23 件
腹痛	13 件	16 件	12 件
吐き気		9 件	11 件
熱中・脱水	13 件	6 件	11 件
嘔吐	6 件	7 件	9 件
平均障害	5 件	4 件	5 件
呼吸系の発作	7 件	1 件	5 件
生理痛	0 件	0 件	5 件
感染症	1 件	8 件	4 件
乗り物酔	0 件	1 件	0 件
喘息	3 件	1 件	0 件
痙攣症状	0 件	1 件	0 件
下痢	1 件	0 件	0 件
アレルギー	2 件	0 件	0 件
精神疾患		0 件	0 件
上記以外の痛み		2 件	0 件
合計	119 件	116 件	169 件

■表9 就寝時間

内科系	件数		
	H25	H26	H27
感冒	135 件	86 件	113 件
嘔吐	42 件	30 件	22 件
頭痛	52 件	26 件	21 件
腹痛	35 件	25 件	20 件
体調不良	19 件	9 件	18 件
感染症	36 件	12 件	16 件
吐き気		18 件	8 件
喘息	12 件	8 件	8 件
熱中・脱水	3 件	8 件	3 件
平均障害	6 件	3 件	3 件
アレルギー	0 件	0 件	2 件
生理痛	1 件	2 件	1 件
痙攣症状	1 件	1 件	1 件
精神疾患		1 件	1 件
下痢	1 件	1 件	1 件
呼吸系の発作	5 件	7 件	0 件
乗り物酔	0 件	0 件	0 件
上記以外の痛み		0 件	1 件
合計	348 件	237 件	239 件

注 1 :「吐き気」、「精神疾患」、「上記以外の痛み」は、平成 26 年度より追加した集計項目である。
注 2 :「平均障害」は、めまいや貧血等の傷病の総称である。

（２）傷病別件数

①外科系

施設屋内において発生した 443 件の外科系傷病について、傷病別に分類すると、捻挫打撲が 164 件と全体で 37.0%を占めている。次いで、切り傷が 54 件、生物系が 44 件、擦過傷が 30 件となっており、上位 4 種類の傷病件数が全体の 65.9%を占めている（図 2、表 10）。

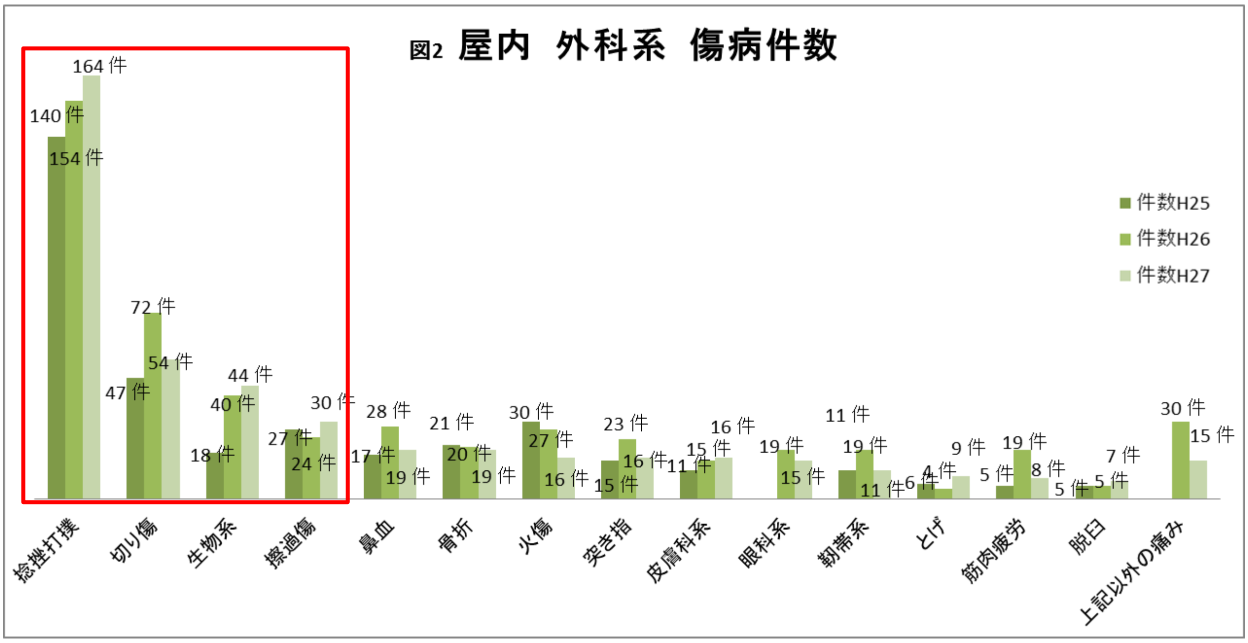


図2 屋内 外科系 傷病件数

■表10 屋内 外科系傷病件数

傷病	件数		
	H25	H26	H27
捻挫打撲	140 件	154 件	164 件
切り傷	47 件	72 件	54 件
生物系	18 件	40 件	44 件
擦過傷	27 件	24 件	30 件
鼻血	17 件	28 件	19 件
骨折	21 件	20 件	19 件
火傷	30 件	27 件	16 件
突き指	15 件	23 件	16 件
皮膚科系	11 件	15 件	16 件
眼科系		19 件	15 件
靭帯系	11 件	19 件	11 件
とげ	6 件	4 件	9 件
筋肉疲労	5 件	19 件	8 件
脱臼	5 件	5 件	7 件
上記以外の痛み		30 件	15 件
合計	353 件	499 件	443 件

発生件数の多かった上位 4 種類の傷病について、活動内容別に発生件数を集計した（図 3～6、表 11～14）。

a.捻挫打撲

捻挫打撲の発生件数が多い活動内容は、スポーツ活動で 78 件（47.6%）、自由時間で 28 件（17.1%）、移動中で 16 件（9.8%）、研修・学習・文化活動で 16 件（9.8%）となっている。

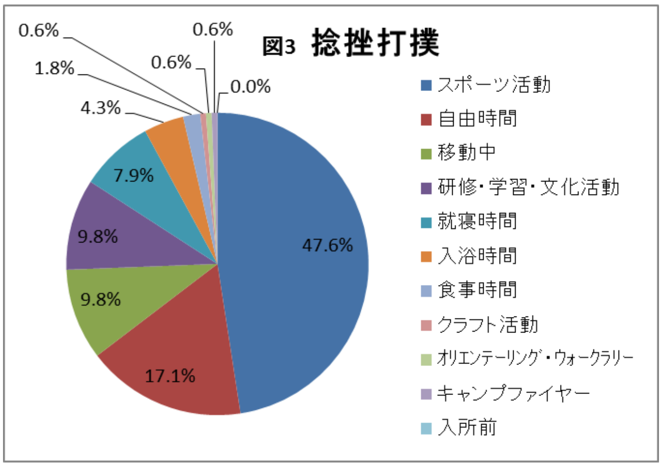


図3 捻挫打撲

■表11 捻挫打撲

傷病場所	件数	割合
スポーツ活動	78	47.6%
自由時間	28	17.1%
移動中	16	9.8%
研修・学習・文化活動	16	9.8%
就寝時間	13	7.9%
入浴時間	7	4.3%
食事時間	3	1.8%
クラフト活動	1	0.6%
ｵﾘｴﾝﾃｰﾘﾝｸﾞ・ｳｫｰｸﾗﾘｰ	1	0.6%
キャンプファイヤー	1	0.6%
入所前	0	0.0%
合計	164	－

b.切り傷

切り傷の発生件数が多い活動内容は、自由時間で 15 件（27.8%）、スポーツ活動で 10 件（18.5%）、入浴時間で 9 件（16.7%）、クラフト活動で 7 件（13.0%）となっている。

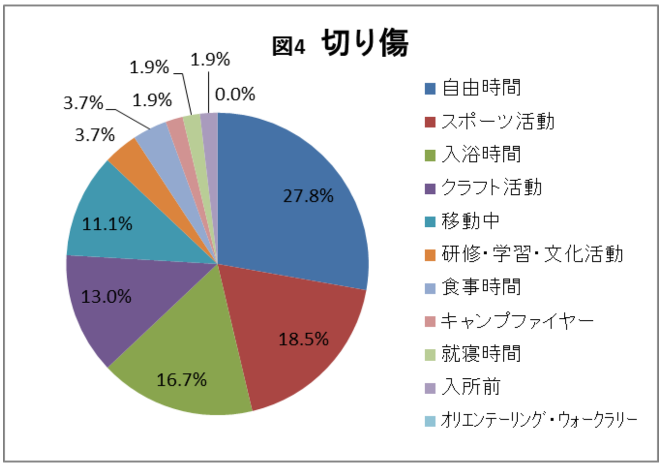


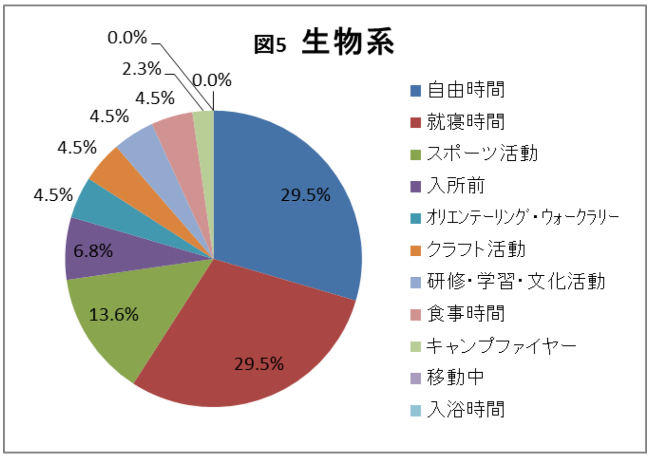
図4 切り傷

■表12 切り傷

傷病場所	件数	割合
自由時間	15	27.8%
スポーツ活動	10	18.5%
入浴時間	9	16.7%
クラフト活動	7	13.0%
移動中	6	11.1%
研修・学習・文化活動	2	3.7%
食事時間	2	3.7%
キャンプファイヤー	1	1.9%
就寝時間	1	1.9%
入所前	1	1.9%
ｵﾘｴﾝﾃｰﾘﾝｸﾞ・ｳｫｰｸﾗﾘｰ	0	0.0%
合計	54	－

c.生物系

生物系傷病の発生件数が多い活動内容は、自由時間と就寝時間で各 13 件（29.5%）、スポーツ活動で 6 件（13.6%）、入所前で 3 件(6.8%)となっている。

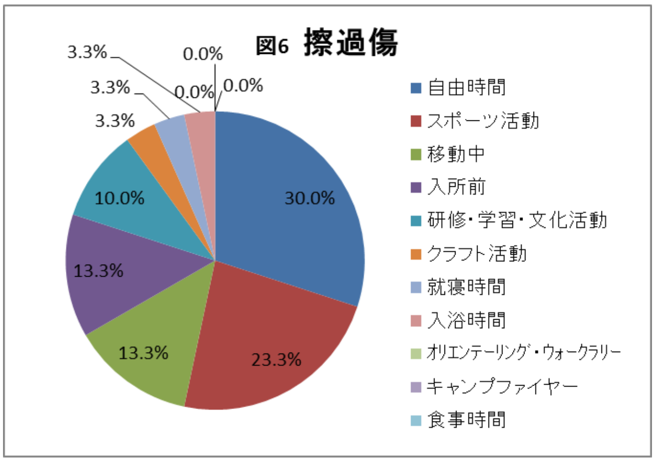


■表13 生物系

傷病場所	件数	割合
自由時間	13	29.5%
就寝時間	13	29.5%
スポーツ活動	6	13.6%
入所前	3	6.8%
ｵﾘｴﾝﾃｰﾘﾝｸﾞ・ｳｫｰｸﾗﾘｰ	2	4.5%
クラフト活動	2	4.5%
研修・学習・文化活動	2	4.5%
食事時間	2	4.5%
キャンプファイヤー	1	2.3%
移動中	0	0.0%
入浴時間	0	0.0%
合計	44	－

d.擦過傷

擦過傷の発生件数が多い活動内容は、自由時間で 9 件（30.0%）、スポーツ活動で 7 件（23.3%）、移動中と入所前が各 4 件(13.3%)となっている。

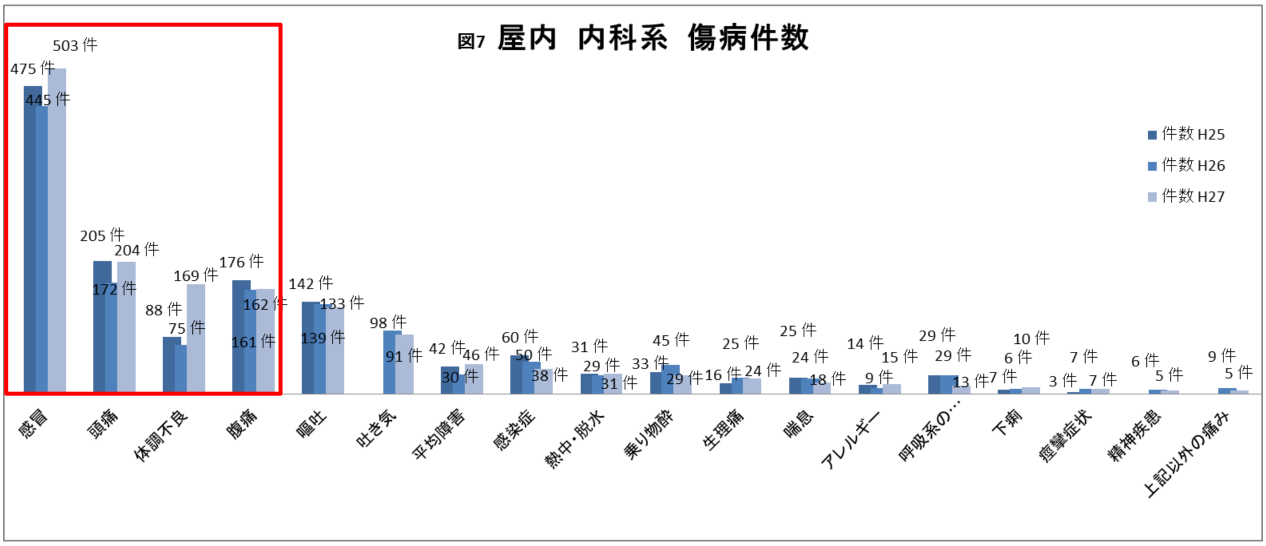


■表14 擦過傷

傷病場所	件数	割合
自由時間	9	30.0%
スポーツ活動	7	23.3%
移動中	4	13.3%
入所前	4	13.3%
研修・学習・文化活動	3	10.0%
クラフト活動	1	3.3%
就寝時間	1	3.3%
入浴時間	1	3.3%
ｵﾘｴﾝﾃｰﾘﾝｸﾞ・ｳｫｰｸﾗﾘｰ	0	0.0%
キャンプファイヤー	0	0.0%
食事時間	0	0.0%
合計	30	－

②内科系

施設屋内において発生した 1,503 件の内科系傷病について傷病別に分類すると、感冒が 503 件で 33.5%を占めている。次いで、頭痛が 204 件、体調不良が 169 件、腹痛が 162 件となっており、上位 4 種類が全体の 69.1%を占めている（図 7、表 15）。



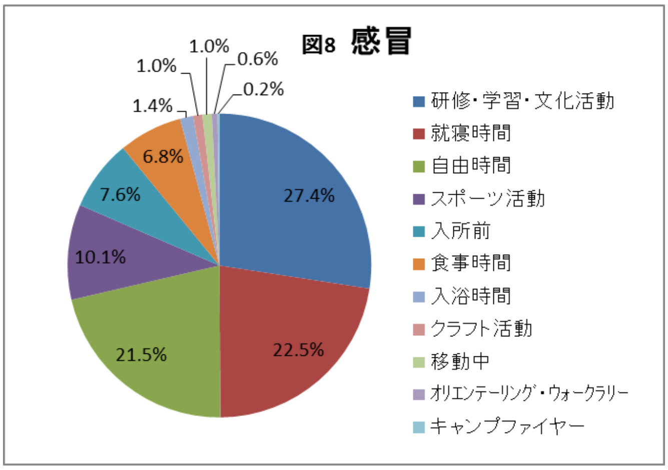
■表15 屋内 内科系傷病件数

傷病	件数		
	H25	H26	H27
感冒	475 件	445 件	503 件
頭痛	205 件	172 件	204 件
体調不良	88 件	75 件	169 件
腹痛	176 件	161 件	162 件
嘔吐	142 件	139 件	133 件
吐き気		98 件	91 件
平均障害	42 件	30 件	46 件
感染症	60 件	50 件	38 件
熱中・脱水	31 件	29 件	31 件
乗り物酔	33 件	45 件	29 件
生理痛	16 件	25 件	24 件
喘息	25 件	24 件	18 件
アレルギー	14 件	9 件	15 件
呼吸系の発作	29 件	29 件	13 件
下痢	6 件	7 件	10 件
痙攣症状	3 件	7 件	7 件
精神疾患		6 件	5 件
上記以外の痛み		9 件	5 件
合計	1,345 件	1,360 件	1,503 件

発生件数の多かった上位 4 種類の傷病について、活動内容別に発生件数を集計した（図 8～11、表 16～19)。

a.感冒

感冒の発生件数が多い活動内容は、研修・学習・文化活動で 138 件（27.4%)、就寝時間で 113 件（22.5%)、自由時間で 108 件（21.5%)、スポーツ活動で 51 件(10.1%)となっている。

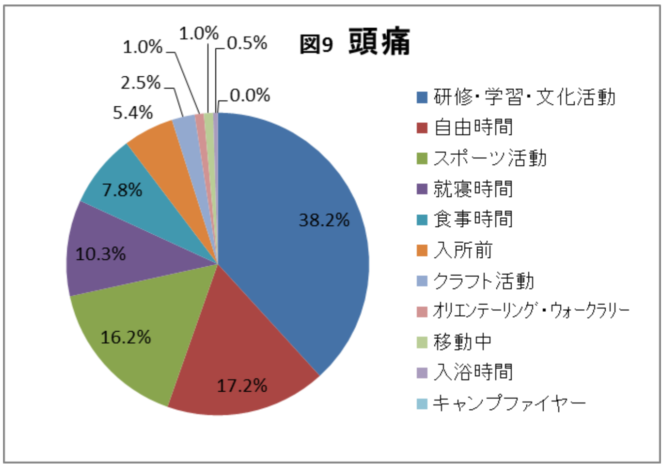


■表16　感冒

傷病場所	件数	割合
研修・学習・文化活動	138	27.4%
就寝時間	113	22.5%
自由時間	108	21.5%
スポーツ活動	51	10.1%
入所前	38	7.6%
食事時間	34	6.8%
入浴時間	7	1.4%
クラフト活動	5	1.0%
移動中	5	1.0%
オリエンテーリング・ウォークラリー	3	0.6%
キャンプファイヤー	1	0.2%
合計	503	－

b.頭痛

頭痛の発生が多い活動内容は、研修・学習・文化活動で 78 件（38.2%)、自由時間で 35 件（17.2%)、スポーツ活動で 33 件（16.2%)、就寝時間で 21 件（10.3%）となっている。

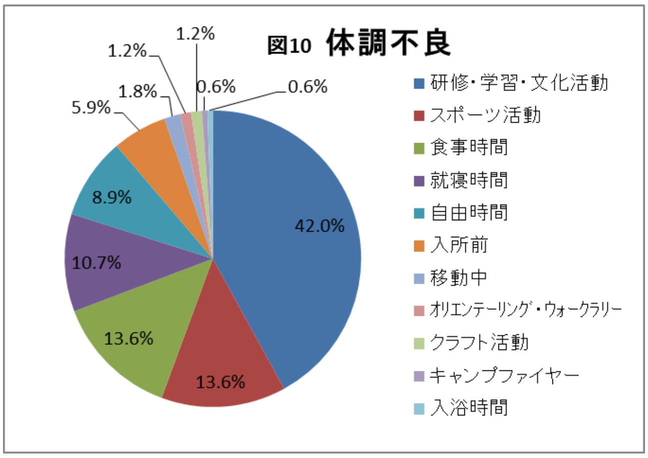


■表17　頭痛

傷病場所	件数	割合
研修・学習・文化活動	78	38.2%
自由時間	35	17.2%
スポーツ活動	33	16.2%
就寝時間	21	10.3%
食事時間	16	7.8%
入所前	11	5.4%
クラフト活動	5	2.5%
オリエンテーリング・ウォークラリー	2	1.0%
移動中	2	1.0%
入浴時間	1	0.5%
キャンプファイヤー	0	0.0%
合計	204	－

c.体調不良

体調不良の発生が多い活動内容は、研修・学習・文化活動で 71 件（42.0%）、スポーツ活動で 23 件（13.6%）、食事時間で 23 件（13.6%）、就寝時間で 18 件（10.7%）となっている。

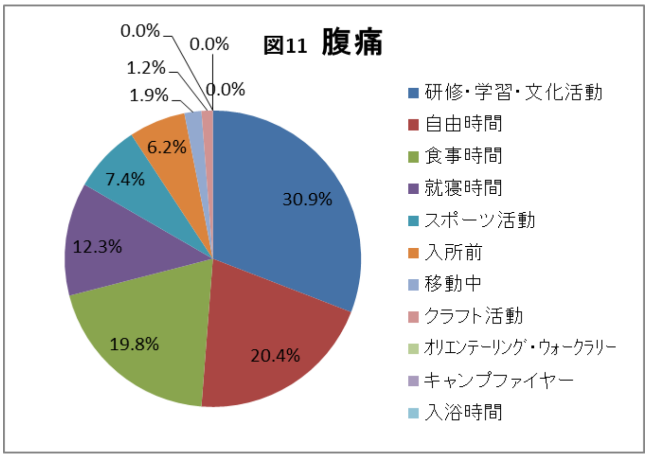


■表18 体調不良

傷病場所	件数	割合
研修・学習・文化活動	71	42.0%
スポーツ活動	23	13.6%
食事時間	23	13.6%
就寝時間	18	10.7%
自由時間	15	8.9%
入所前	10	5.9%
移動中	3	1.8%
オリエンテーリング・ウォークラリー	2	1.2%
クラフト活動	2	1.2%
キャンプファイヤー	1	0.6%
入浴時間	1	0.6%
合計	169	−

d.腹痛

腹痛の発生が多い活動内容は、研修・学習・文化活動で 50 件（30.9%）、自由時間で 33 件（20.4%）、食事時間で 32 件（19.8%）、就寝時間で 20 件（12.3%）となっている。



■表19 腹痛

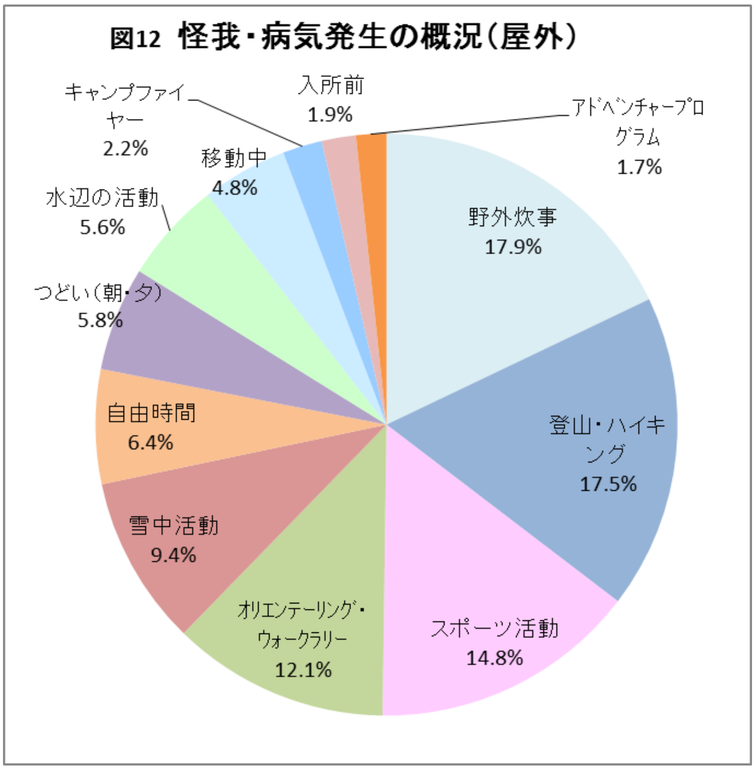
傷病場所	件数	割合
研修・学習・文化活動	50	30.9%
自由時間	33	20.4%
食事時間	32	19.8%
就寝時間	20	12.3%
スポーツ活動	12	7.4%
入所前	10	6.2%
移動中	3	1.9%
クラフト活動	2	1.2%
オリエンテーリング・ウォークラリー	0	0.0%
キャンプファイヤー	0	0.0%
入浴時間	0	0.0%
合計	162	−

2.施設屋外における傷病状況

（1）活動内容別傷病件数

①傷病件数の比較

平成 27 年度に施設屋外において発生した傷病件数は 1,498 件であった。そのうち、傷病又は活動内容が「不明」等の項目を除いた 1,368 件について活動内容別に傷病件数を集計した結果は、野外炊事が 245 件（17.9%）、登山・ハイキングが 239 件（17.5%）、スポーツ活動が 203 件（14.8%）、オリエンテーリング・ウォークラリーが 165 件（12.1%）であり、上位 4 種類の活動内容が全体の 62.3%を占めている（図 12、表 20）。



■表20 怪我・病気発生の概況（屋外）

	活動内容	H25		H26		H27	
		件数	割合	件数	割合	件数	割合
1	野外炊事	193	15.4%	199	15.1%	245	17.9%
2	登山・ハイキング	209	16.7%	172	13.1%	239	17.5%
3	スポーツ活動	257	20.5%	251	19.1%	203	14.8%
4	オリエンテーリング・ウォークラリー	120	9.6%	147	11.2%	165	12.1%
5	雪中活動	111	8.9%	122	9.3%	129	9.4%
6	自由時間	61	4.9%	82	6.2%	87	6.4%
7	つどい（朝・夕）	66	5.3%	78	5.9%	79	5.8%
8	水辺の活動	107	8.5%	110	8.4%	77	5.6%
9	移動中	33	2.6%	62	4.7%	65	4.8%
10	キャンプファイヤー	40	3.2%	26	2.0%	30	2.2%
11	入所前	37	3.0%	43	3.3%	26	1.9%
12	アドベンチャープログラム	18	1.4%	23	1.7%	23	1.7%
	合計	1,252	−	1,315	−	1,368	−

②主要な屋外活動における外科系傷病件数

傷病件数の多かった上位４種類の活動内容について、外科系傷病の件数に着目し集計した（表 21 ～24）。

野外炊事と登山・ハイキングで、「生物系」が最多となっている。スポーツ活動とオリエンテーリング・ウォークラリーでは、「捻挫打撲」が最多となっている。この他に件数が多い傷病は、野外炊事においては「火傷」、「切り傷」、登山・ハイキングにおいては「捻挫打撲」、「切り傷」、スポーツ活動においては「擦過傷」、「生物系」、オリエンテーリング・ウォークラリーにおいては「生物系」、「切り傷」の順となっている。

■表21　野外炊事

外科系	件数		
	H25	H26	H27
生物系	13 件	37 件	63 件
火傷	44 件	49 件	42 件
切り傷	36 件	29 件	29 件
捻挫打撲	11 件	9 件	13 件
擦過傷	4 件	4 件	5 件
皮膚科系	1 件	2 件	2 件
靭帯系	1 件	0 件	2 件
筋肉疲労	0 件	0 件	2 件
突き指	0 件	0 件	1 件
とげ	2 件	2 件	0 件
鼻血	1 件	2 件	0 件
骨折	3 件	2 件	0 件
眼科系		1 件	0 件
脱臼	0 件	0 件	0 件
上記以外の痛み		0 件	2 件
合計	116 件	137 件	161 件

■表22　登山・ハイキング

外科系	件数		
	H25	H26	H27
生物系	46 件	16 件	54 件
捻挫打撲	40 件	38 件	42 件
切り傷	10 件	12 件	10 件
皮膚科系	0 件	0 件	9 件
擦過傷	12 件	5 件	7 件
とげ	4 件	6 件	3 件
骨折	5 件	5 件	3 件
眼科系		2 件	2 件
筋肉疲労	6 件	6 件	1 件
靭帯系	4 件	2 件	1 件
鼻血	0 件	4 件	0 件
火傷	0 件	1 件	0 件
突き指	1 件	0 件	0 件
脱臼	1 件	0 件	0 件
上記以外の痛み		0 件	2 件
合計	129 件	97 件	134 件

■表23　スポーツ活動

外科系	件数		
	H25	H26	H27
捻挫打撲	52 件	61 件	38 件
擦過傷	31 件	27 件	12 件
生物系	8 件	33 件	11 件
切り傷	15 件	9 件	10 件
骨折	12 件	12 件	6 件
筋肉疲労	5 件	3 件	5 件
靭帯系	1 件	4 件	3 件
皮膚科系	1 件	4 件	2 件
脱臼	2 件	4 件	2 件
突き指	9 件	3 件	2 件
とげ	0 件	2 件	2 件
眼科系		2 件	1 件
鼻血	4 件	1 件	0 件
火傷	1 件	0 件	0 件
上記以外の痛み		5 件	5 件
合計	141 件	170 件	99 件

■表24　オリエンテーリング・ウォークラリー

外科系	件数		
	H25	H26	H27
捻挫打撲	26 件	27 件	33 件
生物系	7 件	14 件	22 件
切り傷	4 件	12 件	10 件
擦過傷	5 件	5 件	4 件
皮膚科系	1 件	4 件	4 件
骨折	4 件	1 件	3 件
眼科系		2 件	1 件
鼻血	0 件	0 件	1 件
筋肉疲労	0 件	0 件	1 件
突き指	2 件	2 件	0 件
靭帯系	1 件	1 件	0 件
とげ	3 件	0 件	0 件
火傷	0 件	0 件	0 件
脱臼	1 件	0 件	0 件
上記以外の痛み		2 件	1 件
合計	54 件	70 件	80 件

③主要な屋外活動における内科系傷病件数

傷病件数の多かった上位 4 種類の活動内容について、内科系傷病の件数に着目し集計した（表 25～28）。屋外活動の傷病件数については、屋内活動とは対照的に、外科系傷病と比較して内科系傷病の件数が少なくなっている。

野外炊事と登山・ハイキングでは、「感冒」、スポーツ活動とオリエンテーリング・ウォークラリーでは、「熱中・脱水」が最多となっている。この他に件数が多い傷病は、野外炊事では「体調不良」、「腹痛」、登山・ハイキングでは、「頭痛」、「体調不良」、スポーツ活動では、「感冒」、「体調不良」、オリエンテーリング・ウォークラリーでは、「体調不良」、「感冒」の順となっている。

■表25　野外炊事

内科系	件数		
	H25	H26	H27
感冒	31 件	19 件	18 件
体調不良	6 件	0 件	13 件
腹痛	16 件	11 件	11 件
頭痛	11 件	10 件	10 件
熱中・脱水	6 件	4 件	7 件
吐き気	／	5 件	7 件
平均障害	1 件	1 件	5 件
嘔吐	3 件	0 件	5 件
生理痛	0 件	1 件	3 件
喘息	0 件	2 件	3 件
アレルギー	1 件	1 件	2 件
感染症	0 件	3 件	0 件
下痢	1 件	1 件	0 件
痙攣症状	1 件	0 件	0 件
呼吸系の発作	0 件	3 件	0 件
精神疾患	／	1 件	0 件
乗り物酔	0 件	0 件	0 件
上記以外の痛み	／	0 件	0 件
合計	77 件	62 件	84 件

■表26　登山・ハイキング

内科系	件数		
	H25	H26	H27
感冒	23 件	20 件	37 件
頭痛	18 件	12 件	34 件
体調不良	4 件	5 件	7 件
吐き気	／	5 件	7 件
腹痛	8 件	5 件	6 件
嘔吐	11 件	3 件	5 件
熱中・脱水	9 件	7 件	4 件
呼吸系の発作	1 件	9 件	1 件
アレルギー	1 件	3 件	1 件
痙攣症状	0 件	1 件	1 件
下痢	0 件	0 件	1 件
喘息	2 件	3 件	0 件
感染症	0 件	1 件	0 件
生理痛	2 件	1 件	0 件
乗り物酔	0 件	0 件	0 件
平均障害	1 件	0 件	0 件
精神疾患	／	0 件	0 件
上記以外の痛み	／	0 件	1 件
合計	80 件	75 件	105 件

■表27　スポーツ活動

内科系	件数		
	H25	H26	H27
熱中・脱水	29 件	24 件	31 件
感冒	36 件	17 件	22 件
体調不良	11 件	5 件	15 件
頭痛	13 件	9 件	10 件
腹痛	7 件	7 件	5 件
平均障害	4 件	0 件	5 件
下痢	1 件	1 件	3 件
呼吸系の発作	3 件	1 件	3 件
吐き気	／	4 件	3 件
嘔吐	6 件	8 件	3 件
生理痛	0 件	0 件	2 件
感染症	1 件	5 件	1 件
喘息	2 件	0 件	1 件
アレルギー	3 件	0 件	0 件
乗り物酔	0 件	0 件	0 件
精神疾患	／	0 件	0 件
痙攣症状	0 件	0 件	0 件
上記以外の痛み	／	0 件	0 件
合計	116 件	81 件	104 件

■表28　オリエンテーリング・ウォークラリー

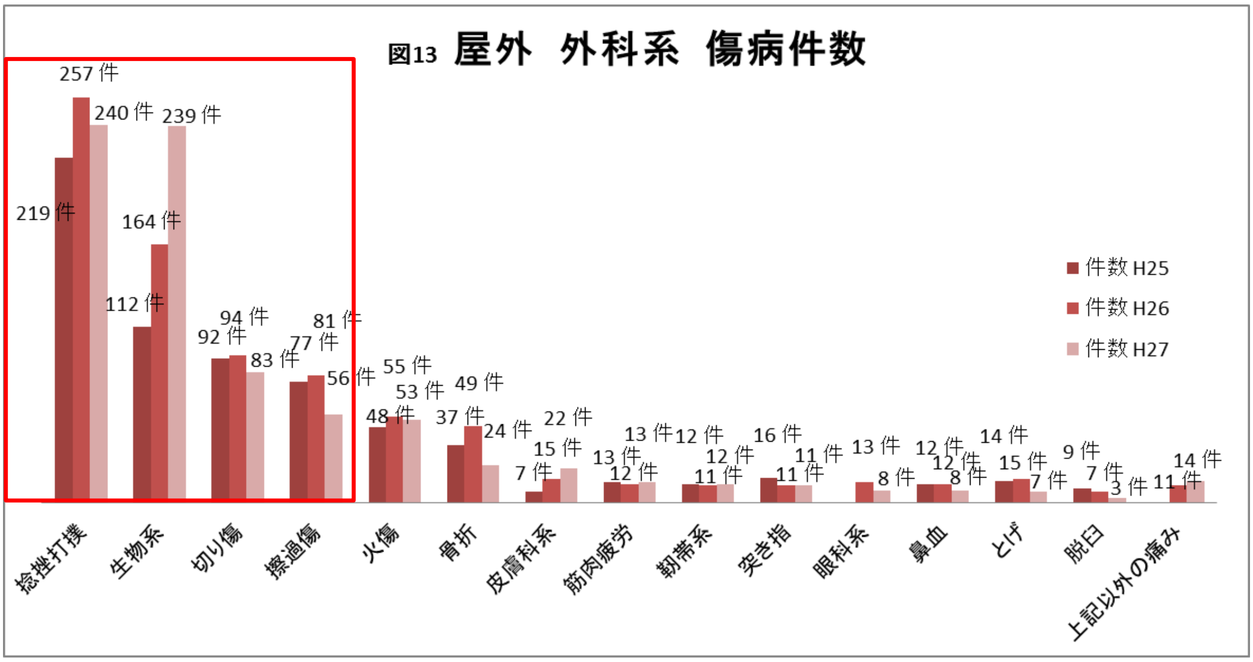
内科系	件数		
	H25	H26	H27
熱中・脱水	20 件	7 件	21 件
体調不良	7 件	2 件	17 件
感冒	12 件	18 件	15 件
腹痛	5 件	11 件	12 件
頭痛	7 件	17 件	8 件
平均障害	6 件	4 件	3 件
嘔吐	4 件	8 件	2 件
吐き気	／	5 件	2 件
呼吸系の発作	0 件	1 件	2 件
喘息	1 件	2 件	1 件
生理痛	1 件	0 件	1 件
痙攣症状	0 件	0 件	1 件
精神疾患	／	0 件	0 件
乗り物酔	0 件	0 件	0 件
感染症	0 件	0 件	0 件
アレルギー	3 件	2 件	0 件
下痢	0 件	0 件	0 件
上記以外の痛み	／	0 件	0 件
合計	66 件	77 件	85 件

（２）傷病別件数

①外科系

施設屋外において発生した 793 件の外科系傷病について傷病別に分類したところ、捻挫打撲が 240 件と全体の 30.3%を占めている。次いで、生物系が 239 件、切り傷が 83 件、擦過傷が 56 件となっており、以上の上位 4 種類が全体の 77.9%を占めている（図 13、表 29）。

また、他の傷病と比較して、生物系が経年で大きく増加している。



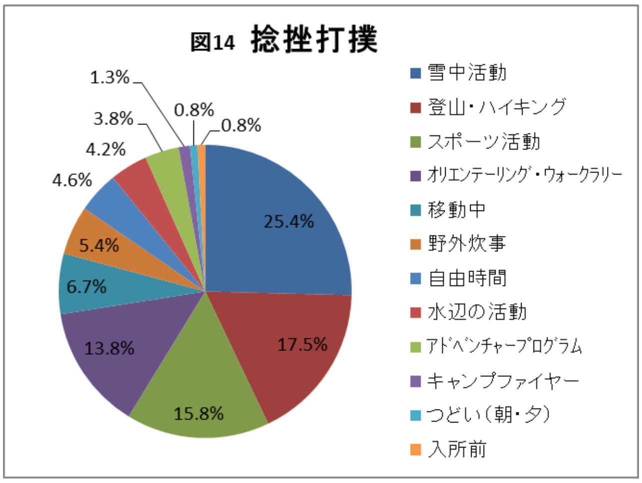
■表29 屋外 外科系 傷病件数

傷病	件数		
	H25	H26	H27
捻挫打撲	219 件	257 件	240 件
生物系	112 件	164 件	239 件
切り傷	92 件	94 件	83 件
擦過傷	77 件	81 件	56 件
火傷	48 件	55 件	53 件
骨折	37 件	49 件	24 件
皮膚科系	7 件	15 件	22 件
筋肉疲労	13 件	12 件	13 件
靭帯系	12 件	11 件	12 件
突き指	16 件	11 件	11 件
眼科系	／	13 件	8 件
鼻血	12 件	12 件	8 件
とげ	14 件	15 件	7 件
脱臼	9 件	7 件	3 件
上記以外の痛み	／	11 件	14 件
合計	668 件	807 件	793 件

また、発生件数の多かった上位 4 種類の傷病について、活動内容別に発生件数を集計した（図 14～17、表 30～33)。

a.捻挫打撲

捻挫打撲の発生件数が多い活動内容は、雪中活動で 61 件(25.4%)、登山・ハイキングが 42 件(17.5%)、スポーツ活動で 38 件(15.8%)、オリエンテーリング・ウォークラリーで 33 件 (13.8%)となっている。

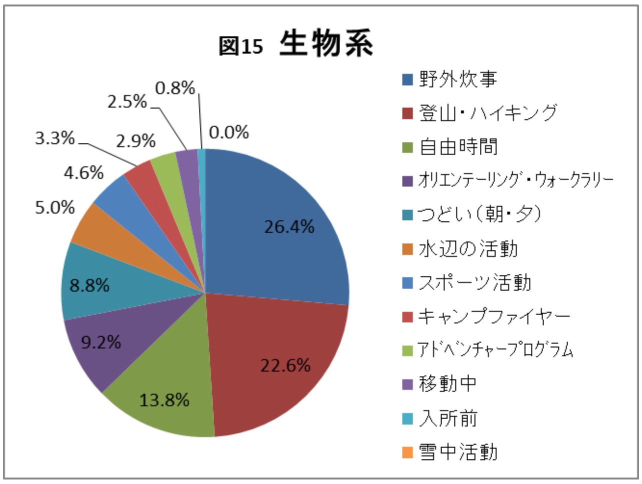


■表30 捻挫打撲

傷病場所	件数	割合
雪中活動	61	25.4%
登山・ハイキング	42	17.5%
スポーツ活動	38	15.8%
ｵﾘｴﾝﾃｰﾘﾝｸﾞ・ｳｫｰｸﾗﾘｰ	33	13.8%
移動中	16	6.7%
野外炊事	13	5.4%
自由時間	11	4.6%
水辺の活動	10	4.2%
ｱﾄﾞﾍﾞﾝﾁｬｰﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ	9	3.8%
キャンプファイヤー	3	1.3%
つどい（朝・夕）	2	0.8%
入所前	2	0.8%
合計	240	－

b.生物系

生物系傷病の発生件数が多い活動内容は、野外炊事で 63 件（26.4%）、登山・ハイキングが 54 件（22.6%）、自由時間が 33 件（13.8%）、オリエンテーリング・ウォークラリーが 22 件（9.2%）となっている。

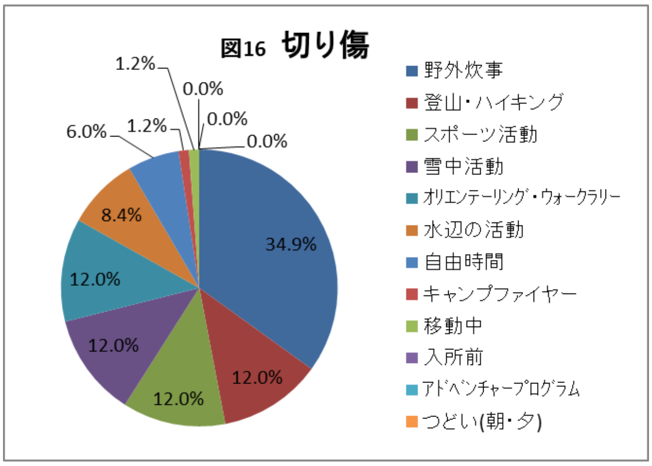


■表31 生物系

傷病場所	件数	割合
野外炊事	63	26.4%
登山・ハイキング	54	22.6%
自由時間	33	13.8%
ｵﾘｴﾝﾃｰﾘﾝｸﾞ・ｳｫｰｸﾗﾘｰ	22	9.2%
つどい（朝・夕）	21	8.8%
水辺の活動	12	5.0%
スポーツ活動	11	4.6%
キャンプファイヤー	8	3.3%
ｱﾄﾞﾍﾞﾝﾁｬｰﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ	7	2.9%
移動中	6	2.5%
入所前	2	0.8%
雪中活動	0	0.0%
合計	239	－

c.切り傷

切り傷の発生件数が多い活動内容は、野外炊事で 29 件（34.9%）、登山・ハイキング、スポーツ活動、雪中活動、オリエンテーリング・ウォークラリーが各 10 件（12.0%）となっている

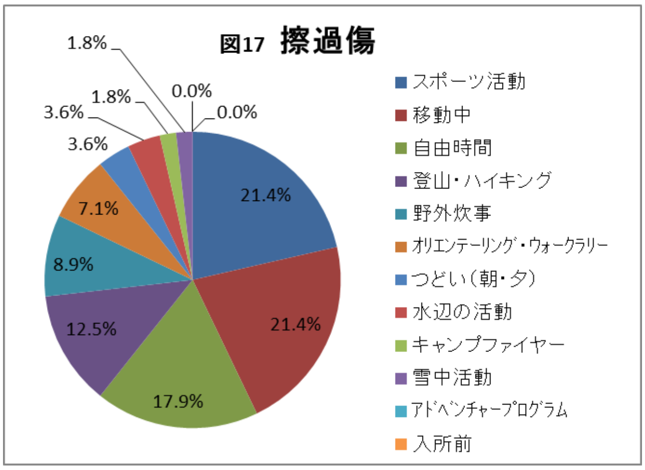


■表32　切り傷

傷病場所	件数	割合
野外炊事	29	34.9%
登山・ハイキング	10	12.0%
スポーツ活動	10	12.0%
雪中活動	10	12.0%
ｵﾘｴﾝﾃｰﾘﾝｸﾞ・ｳｫｰｸﾗﾘｰ	10	12.0%
水辺の活動	7	8.4%
自由時間	5	6.0%
キャンプファイヤー	1	1.2%
移動中	1	1.2%
入所前	0	0.0%
ｱﾄﾞﾍﾞﾝﾁｬｰﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ	0	0.0%
つどい(朝・夕)	0	0.0%
合計	83	－

d.擦過傷

擦過傷の発生件数が多い活動内容は、スポーツ活動及び移動中で各 12 件（21.4%）、自由時間が 10 件（17.9%）、登山・ハイキングで 7 件（12.5%）となっている。

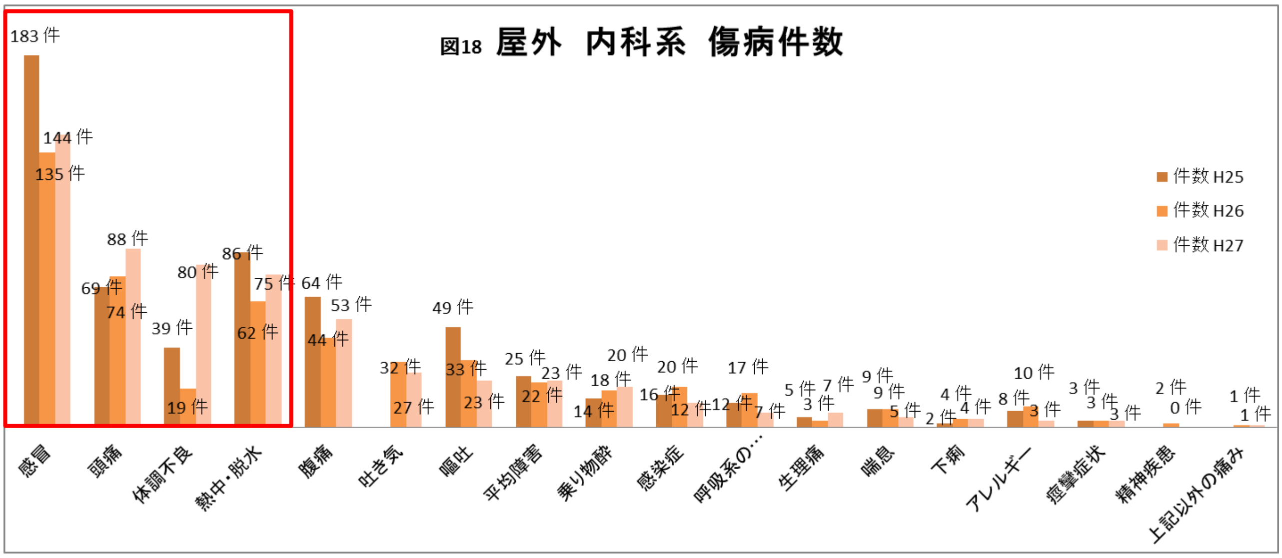


■表33　擦過傷

傷病場所	件数	割合
スポーツ活動	12	21.4%
移動中	12	21.4%
自由時間	10	17.9%
登山・ハイキング	7	12.5%
野外炊事	5	8.9%
ｵﾘｴﾝﾃｰﾘﾝｸﾞ・ｳｫｰｸﾗﾘｰ	4	7.1%
つどい(朝・夕)	2	3.6%
水辺の活動	2	3.6%
キャンプファイヤー	1	1.8%
雪中活動	1	1.8%
ｱﾄﾞﾍﾞﾝﾁｬｰﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ	0	0.0%
入所前	0	0.0%
合計	56	－

②内科系

施設屋外において発生した 575 件の内科系傷病について傷病別に分類すると、感冒が 144 件で 25.0%を占めている。次いで、頭痛が 88 件、体調不良が 80 件、熱中・脱水が 75 件となっており、上位 4 種類が全体の 67.3%を占めている（図 18、表 34）。



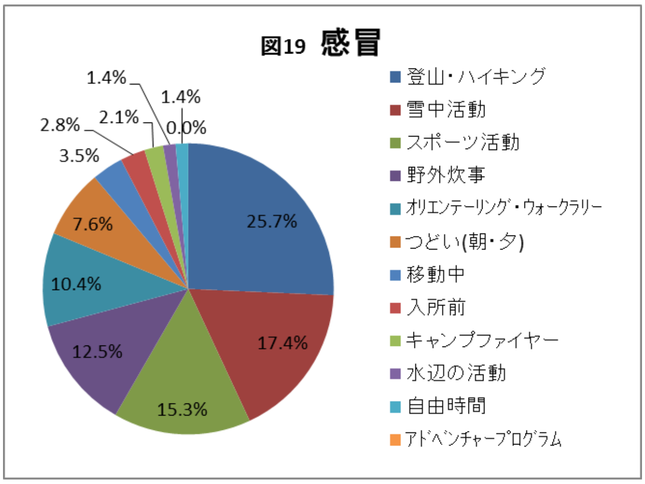
■表34 屋外 内科系 傷病件数

傷病	件数		
	H25	H26	H27
感冒	183 件	135 件	144 件
頭痛	69 件	74 件	88 件
体調不良	39 件	19 件	80 件
熱中・脱水	86 件	62 件	75 件
腹痛	64 件	44 件	53 件
吐き気		32 件	27 件
嘔吐	49 件	33 件	23 件
平均障害	25 件	22 件	23 件
乗り物酔	14 件	18 件	20 件
感染症	16 件	20 件	12 件
呼吸系の発作	12 件	17 件	7 件
生理痛	5 件	3 件	7 件
喘息	9 件	9 件	5 件
下痢	2 件	4 件	4 件
アレルギー	8 件	10 件	3 件
痙攣症状	3 件	3 件	3 件
精神疾患		2 件	0 件
上記以外の痛み		1 件	1 件
合計	584 件	508 件	575 件

発生件数の多かった上位 4 種類の傷病について、活動内容別に発生件数を集計した（図 19～22、表 35～38）。

a.感冒

感冒の発生件数が多い活動内容は、登山ハイキングで 37 件（25.7%）、雪中活動が 25 件（17.4%）、スポーツ活動で 22 件（15.3%）、野外炊事で 18 件（12.5%）となっている。

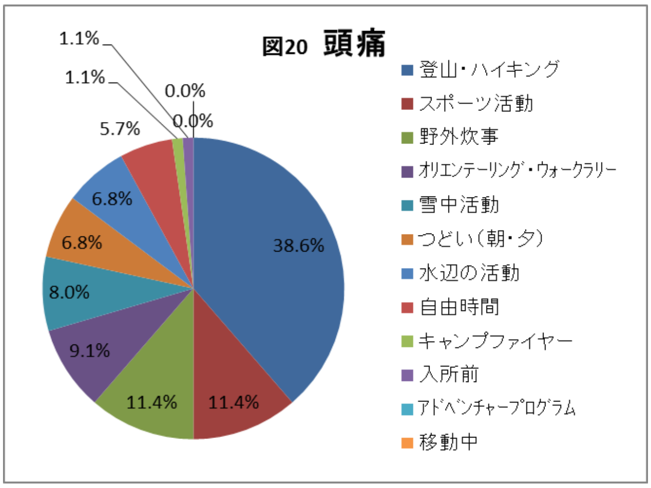


■表35　感冒

傷病場所	件数	割合
登山・ハイキング	37	25.7%
雪中活動	25	17.4%
スポーツ活動	22	15.3%
野外炊事	18	12.5%
ｵﾘｴﾝﾃｰﾘﾝｸﾞ・ｳｫｰｸﾗﾘｰ	15	10.4%
つどい(朝・夕)	11	7.6%
移動中	5	3.5%
入所前	4	2.8%
キャンプファイヤー	3	2.1%
水辺の活動	2	1.4%
自由時間	2	1.4%
ｱﾄﾞﾍﾞﾝﾁｬｰﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ	0	0.0%
合計	144	－

b.頭痛

頭痛の発生件数が多い活動内容は、登山・ハイキングで 34 件（38.6%）、スポーツ活動、野外炊事が各 10 件（11.4%）、オリエンテーリング・ウォークラリーが 8 件（9.1%）となっている。

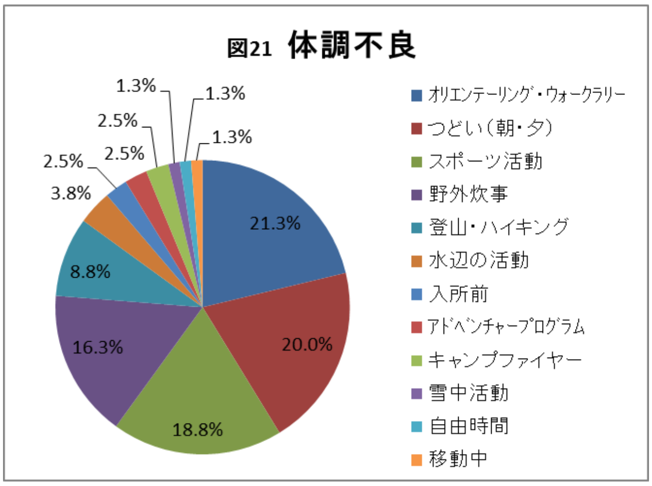


■表36　頭痛

傷病場所	件数	割合
登山・ハイキング	34	38.6%
スポーツ活動	10	11.4%
野外炊事	10	11.4%
ｵﾘｴﾝﾃｰﾘﾝｸﾞ・ｳｫｰｸﾗﾘｰ	8	9.1%
雪中活動	7	8.0%
つどい（朝・夕）	6	6.8%
水辺の活動	6	6.8%
自由時間	5	5.7%
キャンプファイヤー	1	1.1%
入所前	1	1.1%
ｱﾄﾞﾍﾞﾝﾁｬｰﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ	0	0.0%
移動中	0	0.0%
合計	88	－

c.体調不良

体調不良の発生件数が多い活動内容は、オリエンテーリング・ウォークラリーで 17 件(21.3%)、つどい(朝・夕)が 16 件（20.0%)、スポーツ活動で 15 件(18.8%)、野外炊事で 13 件（16.3%）となっている。

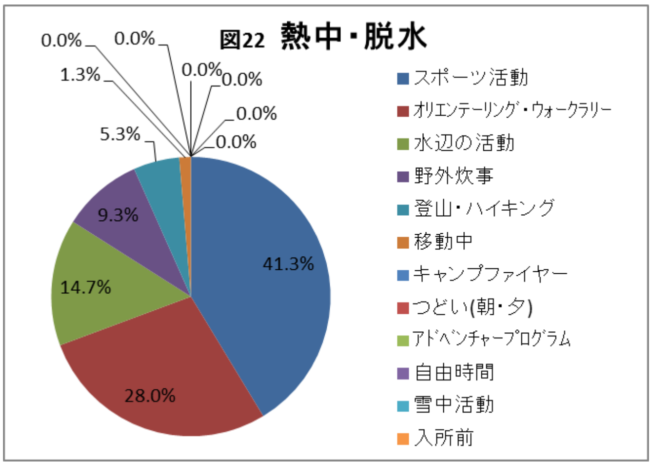


■表37 体調不良

傷病場所	件数	割合
オリエンテーリング・ウォークラリー	17	21.3%
つどい（朝・夕）	16	20.0%
スポーツ活動	15	18.8%
野外炊事	13	16.3%
登山・ハイキング	7	8.8%
水辺の活動	3	3.8%
入所前	2	2.5%
アドベンチャープログラム	2	2.5%
キャンプファイヤー	2	2.5%
雪中活動	1	1.3%
自由時間	1	1.3%
移動中	1	1.3%
合計	80	－

d.熱中・脱水

熱中・脱水の発生件数が多い活動内容は、スポーツ活動で 31 件 (41.3%)、オリエンテーリング・ウォークラリーが 21 件（28.0%)、水辺の活動で 11 件（14.7%)、野外炊事で 7 件（9.3%）となっている。



■表38 熱中・脱水

傷病場所	件数	割合
スポーツ活動	31	41.3%
オリエンテーリング・ウォークラリー	21	28.0%
水辺の活動	11	14.7%
野外炊事	7	9.3%
登山・ハイキング	4	5.3%
移動中	1	1.3%
キャンプファイヤー	0	0.0%
つどい(朝・夕)	0	0.0%
アドベンチャープログラム	0	0.0%
自由時間	0	0.0%
雪中活動	0	0.0%
入所前	0	0.0%
合計	75	－

Ⅱ．事例紹介

【対象年度：平成26年度、平成27年度】

１．屋内活動での事故

ガラスの破片で切り傷

■事業分類：研修支援

■活動内容：スポーツ活動（テコンドー）

■場　　所：トイレ

■日　　時：平成２６年８月１８日　１６時００分

■当 該 者：専門学校２年生１名（女子）

■傷病種類：外科系：切り傷（左足裏）

概　要	当該団体は、プレイホールでテコンドーの練習を行っていた。競技の特性上、練習は裸足で行っていた。プレイホールから出てトイレへ行く際に、靴を履かずに裸足でトイレの中に入ったところ、床にガラスの破片が落ちており、左足で踏みつけ足の裏を切った。 当日中に整形外科を受診し、１針縫合した。
原　因	当日の午前中、怪我発生場所からおよそ２０メートル離れた場所で、剥製を展示していたガラスケースが割れる事故が発生した。割れたガラスの片付けは入念に行ったものの、その破片がトイレの床まで飛び散って落ちていたものと思われる。 当該場所は外履きで歩く場所であったため、裸足で歩く利用者がいることを想定しておらず、利用者に近くでガラスケースが割れた事を伝えていなかった。
改善策	裸足での活動が想定される団体については、オリエンテーション時等に、たとえ近距離のトイレ・廊下等であっても、裸足のままで出歩かないよう注意を促している。

そば団子を食べ呼吸困難

■事業分類：研修支援

■活動内容：食事時間

■場　　所：食堂

■日　　時：平成２６年１０月８日　１８時５０分頃

■当 該 者：中学校１年生１名（男子）

■傷病種類：内科系：呼吸器系の発作

概　要	夕食時に食堂で提供されたそば団子入り汁物を食し、軽度の呼吸困難に陥った。 引率者の要請により救急車で搬送され、経過観察のため一晩入院し、退院後直帰した。入院中の容体は安定していたとの事である。 当該者は、そば及び魚介類に対する食物アレルギーを保持していた。
原　因	利用団体（中学校）は当該者が食物アレルギーを保持していることを把握していたにも関わらず、引率者から食堂へ提出された書類には、他の生徒の食物アレルギー情報は記載されていたが、当該者の情報が記載されていなかった。 また、当該者も引率者も、配膳場所の側に掲示してある食材の成分表を事前に確認していなかった。
改善策	食堂を利用する全ての方について食物アレルギーの情報を提供していただけるように、「利用の手引き」等に、「食物アレルギーを持つ方全員について記入してください」、「自己対応可能の軽微なアレルギーについても、もれなくお知らせください」と明記することとした。 また、食物アレルギーに関する利用団体との連絡について、電話でのやり取りだけで済ませてしまうことによる伝達漏れを防ぐため、利用団体から提出される様式に、食堂の担当者及び店長の確認チェック欄を設け、食堂確認後は利用団体に写しを返送し、利用団体と食堂の双方で対応方法を確認することとした。

（屋内・入浴時間・外科系）

浴室で熱湯をかけられ火傷

■事業分類： 研修支援

■活動内容： 入浴時間

■場　　所： 風呂

■日　　時： 平成２７年４月９日　１９時４０分

■当 該 者： 高校１年生１名（男子）

■傷病種類： 外科系：火傷

概　要	浴室で入浴中、生徒同士がふざけ合い、その中で、当該者が桶に入っていた熱湯をかけられ、火傷を負った。 上半身から両内腿にかけて表皮剥離のある火傷で、付添の看護師が応急処置を行い、その後、随行者の車両で病院を受診した。中度（Ⅱ度）の火傷で、帰宅後に皮膚科を受診することになった。
原　因	温度調節のできない蛇口が各浴室に１か所ずつあり、蛇口前にあるすべての鏡に「熱湯注意」のシールを貼って注意喚起を行っていたが、浴室でふざけ合ううちに、シールの注意書きを忘れて熱湯をかけたことが原因と考える。 なお、温度調節のできない蛇口がある理由は、浴室清掃時に高圧の水及び高温の湯を使用するためである。
改善策	入所時のオリエンテーション等で、今回の事故事例を織り交ぜ、入浴時のマナーや危険性について伝えている。

ベッドの上に立ち上がり棚に激突

■事業分類：研修支援

■活動内容：就寝時間

■場　　所：宿泊室

■日　　時：平成２７年４月２４日　６時１５分

■当 該 者：中学校１年生１名（男子）

■傷病種類：外科系：擦過傷（頭部挫傷及び打撲）

概　要	宿泊室（洋室）のベッドは、短辺を壁に寄せる形で配置しており、壁側に頭を向けて寝るよう利用者にお願いしている。壁の上方には、荷物置き用の木製吊り棚が建て付けられており、利用者の荷物は自分が使うベッドの上の吊り棚に置いてもらっている。 当該者は、起床後に自分が使ったシーツや布団をたたんで片づけるときに、ベッドの枕付近で立ち上がってしまったため、木製棚の角に頭頂部がぶつかってしまい、頭皮をすりむくとともに打撲傷を負った。
原　因	木製棚に頭をぶつけた事例は過去にもあったため、利用者に注意喚起を行うほか、棚の角にはクッション材を貼り付けていたが、事故当日は当該者に割り当てられた棚のクッション材が剥がれ落ちていたため、負傷してしまったものである。 クッション材がなくなった時期については、毎回の退所点検時に異状に気付いていた職員はおらず、前回２月の詳細点検から日数が経過しているため、特定できなかった。
改善策	当該場所のクッション材を貼り直すとともに、他の宿泊室についても棚を点検し、クッション材が剥がれそうな箇所については貼り直した。 また、退所点検時にクッション材が剥がれそうな場所等、破損が予見できる箇所を必ず点検するとともに、破損個所を発見した場合は、先手を打って修繕することとした。

児童及び教員が感染性胃腸炎を発症

■**事業分類：**研修支援

■**活動内容：**入所前

■**場　　所：**宿泊室

■**日　　時：**平成２７年６月１１日（利用日程は６月１０日～６月１２日）

■**当 該 者：**小学校５年生　男子３名、女子２名
引率女性教員　１名

■**傷病種類：**内科系：感染症（ノロウィルスの疑いによる「感染性胃腸炎」）

概　要	6月8日（利用2日前）、当該団体（小学校）より、「6月5日に学校内で複数の児童が感染性胃腸炎にかかり、6月6日に今回利用予定の5年生児童1名が発症した。当該児童からは治癒証明書が出されているが、また別の5年生児童1名が体調不良を訴えている。この児童は治癒証明書が出ない限り集団宿泊学習に参加させない。」旨の連絡があった。 6月9日（利用前日）、当施設から利用の可否について確認したところ、「教育委員会及び所管保健所へ確認をとった結果、集団宿泊学習は実施可能との事だったため、予定通り伺う」との回答があったため、入所を受け入れた。 しかし、6月11日（利用２日目）の朝に児童２名、午前中に児童１名、夕方に児童２名と教員１名が体調不良を訴えた。以上６人は当施設近隣の医療機関で順次受診し、全員「感染性胃腸炎」との診断が出た。
原　因	当施設の職員及び他団体に「感染性胃腸炎」で体調を崩した者がいないことから、当該小学校に保菌者がおり、集団行動中に感染した可能性が高いものと思われる。
改善策	利用日の直前に感染性の病気が集団発生した場合は、終息したことがわかる文書（保健所又は教育委員会発行）の提出を求めることとするとともに、利用団体に利用日の変更を促すこととした。
事　後	同月下旬に他の小学校から同様の連絡があり、今回の事例を挙げて利用日の変更を勧めた結果、利用を10月に変更し、無事集団宿泊学習を終えることができた。

焼板クラフトの煙を吸入し、じんましんとかゆみを発症

■事業分類：研修支援

■活動内容：研修・学習・文化活動

■場　　所：研修室

■日　　時：平成２７年6月１１日　１９時３０分

■当 該 者：高校１年生１名（女子）

■傷病種類：外科系：皮膚科系

概　要	当施設の研修室がある建物は、１階の一部分に、壁がなく建物の反対側へ通り抜けられる通路スペースが設けられている。通路スペース自体は建物外であるが、近くに建物の出入口や階段等があり、ここで発生した煙は建物の上層階に流れることが多い。 当該者の団体は３階研修室で活動しており、同時刻に他の団体が１階の通路スペースで焼き板クラフトの制作活動を行っていた。研修室の扉は気密性が高くないため、制作活動で発生した煙が階段を伝って研修室にも流入した。これを吸入したことにより、じんましん（化学物質過敏症）とかゆみを訴える。 大事をとって、引率教諭より救急車を要請し、医療機関へ搬送。 当該者の意識は、はっきりしており、その後快復。
原　因	３階の研修室で活動中に、他の団体が１階通路スペースで行った焼き板クラフトで発生した煙を吸入したことが原因。 当該者は、化学物質アレルギーを保持しており、過去に同様の症状を発症していた。 当該者の団体を担当していた職員は、アレルギーの情報を入所前に得ており、他の職員１名の確認を受けていたが、活動場所の調整はさらに別の職員が主として行ったため、アレルギーの情報が活動場所の調整に反映されなかった。
改善策	教育事業申込時や研修支援プログラム調整時に、利用者のアレルギーの状況について聞き取り等で把握したが、その情報を施設職員全員で情報共有するため、台帳等に記載するとともに、活動場所のアレルゲンの発生や、他の団体への影響について３名体制で確認することとした。 利用団体に化学物質アレルギー保持者がいる場合は、その団体の活動場所と、原因となる活動の場所が同じ棟にならないように調整することとする。

屋内でマダニにかまれる

■事業分類：研修支援

■活動内容：その他（雨天のため講堂にてテント張り）

■場　　所：講堂

■日　　時：平成２７年7月１９日　２１時２０分

■当 該 者：大学２年生１名（女子）

■傷病種類：外科系：生物系（マダニ咬傷）

概　要	当該者から引率者へ、左目の上まぶたに虫さされがあるとの相談があった。当該者によると、夕方のテント張り活動の時に、左目付近に違和感があることに気づいたとの事であった。 病院へ事前に連絡した上で、本人が自家用車を運転し、付添人１名が同行して受診した。 マダニにかまれているとの診断があり、ワセリンを患部に塗ってマダニを窒息させる治療を受けたところ、マダニがとれたため、深夜に教育施設へ帰着した。 帰着時点では、マダニがかんだ部分が紫色になっていたが、大きな腫れ等は見られなかった。
原　因	野外活動時又は屋内で行ったテント張り活動時に、マダニにまぶたをかまれたことが原因である。 テント張り活動で使用したテントは、普段は屋外で使用しているものである。使用後に毎回天日干しをしてから収納しているが、マダニが残ったままであった可能性は否定できない。
改善策	当該活動に使用していたテントは、マダニが残っている可能性があるため、後日、晴天の時にテントを広げて再度日光消毒を行った。その後も、折を見て日光消毒を心掛けている。

室内で楽器練習中に熱中症

■事業分類： 研修支援

■活動内容： 研修・学習・文化活動（楽器演奏及び合唱）

■場　　所： 研修室

■日　　時： 平成２７年９月１日　１４時５５分

■当 該 者： 大学２年生１名（男子）

■傷病種類： 内科系：熱中・脱水

概　要	大学生音楽サークル団体の１名が、室内で練習中に熱中症を発症した。当該場所は 100 人で活動できる規模の部屋で、約 60 人が活動していた。 当日の最高気温は 27℃程度、昨晩までの雨や前線の影響により、湿度が高めだった。 当該者は、顔が青ざめており、当施設職員の問いかけに対して、反応があまり見られなかった為、重度の熱中症の可能性があると判断し、速やかに消防署へ連絡し救急搬送となった。
原　因	当該場所は冷房設備がなく、実施可能な熱気対策は窓を開けることによる換気であるが、当該利用団体が、楽器演奏と合唱で大きな音を出すため、他団体に配慮して換気を最小限にとどめた結果、室内が高温多湿になったことが原因であると考えられる。
改善策	団体貸出用の扇風機・サーキュレーターを増やし、すぐに貸出ができるよう倉庫ではなく事務室に配置した。また、屋内で行う文化活動であっても熱中症は起こりうることを職員間で再度確認し、入所時オリエンテーションの際の注意喚起を強化した。

Ⅱ. 事例紹介

【対象年度：平成 26 年度、平成 27 年度】

２． 屋外活動での事故

沢登り中転落し骨折

■事業分類：研修支援

■活動内容：水辺の活動（沢登り）

■場　　所：屋外：その他（沢）

■日　　時：平成２６年６月２５日　６時３０分

■当 該 者：小学校５年生１名（女子）

■傷病種類：外科系：骨折

概　要	沢登り中、滝の岩壁に登ろうとしていたところ、水面から１メートルのところで両足の靴が岩壁の隙間にはまり、落下した。その際、岩壁に足をぶつけ、右足の第五中足骨部（足の小指側の根元の骨）を骨折した。
原　因	両足が動かない状況で、両方の腕を交互に動かした事で、岩登りの基本姿勢でもある「三点支持」が不十分な状態となり、バランスを崩し落下した。
改善策	・　活動場所の沢は、シーズン前に職員が実際に登って点検し、足がはまりやすい箇所等の危険な場所が見つかった場合は、その場所を避けて活動するよう利用団体へ案内する。 ・　沢講習会（年間１２回実施）にて、団体の指導者へ三点支持の登り方を指導。 ・　活動実施前のセーフティートークでは、利用者全員に沢の中では足場が不安定なため、走らない、飛び移らない、足から着水する事を説明し、事故防止に努めている。

町内ウォークラリー中に蜂刺され

■事業分類：研修支援

■活動内容：オリエンテーション・ウォークラリー（町内ウォークラリー）

■場　　所：屋外：その他（町内）

■日　　時：平成２６年７月１０日　１４時４０分

■当 該 者：小学校５年生１名(男子)

■傷病種類：外科系：生物系

概　要	町内ウォークラリー中に、腕等２箇所を蜂に刺された。一旦徒歩で施設へ戻り、保健室においてポイズンリムーバーを使用して毒を吸い出し、患部を氷で冷却した。 その後、事務室から診療所に連絡し、状況を説明した上で、当該者は引率者とともに診療所へタクシーで向かい、抗アレルギー剤を処方された。その後、当該者は団体の活動に参加した。
原　因	７月中旬から９月にかけては蜂が活発に活動する時期であるため、巣の近くを通ったことで攻撃を受けた可能性がある。巣の場所は施設の敷地外で、住宅等が並ぶ市街地であった（施設の敷地内については、蜂トラップを設置している）。
改善策	蜂対策の職員研修を実施し、蜂の生態と適切な対処法の講義について全職員が受講している。ポイズンリムーバーを保健室に常備し、利用者に向けて所内の目のつく箇所に蜂への注意喚起の掲示を行っているが、蜂が活動する時期においては、入所時等に団体の代表者に改めて注意喚起を徹底する。
事　後	発生後においても、入所時等に団体の代表者に改めて注意喚起を徹底しているところではあるが、蜂を含め虫刺されによる事例が４件発生している。今後は朝のつどい等で利用者全体に注意喚起を徹底したい。

サイクリング中に自動車と接触

■事業分類：研修支援

■活動内容：スポーツ活動（サイクリング）

■場　　所：屋外：その他（外周道路）

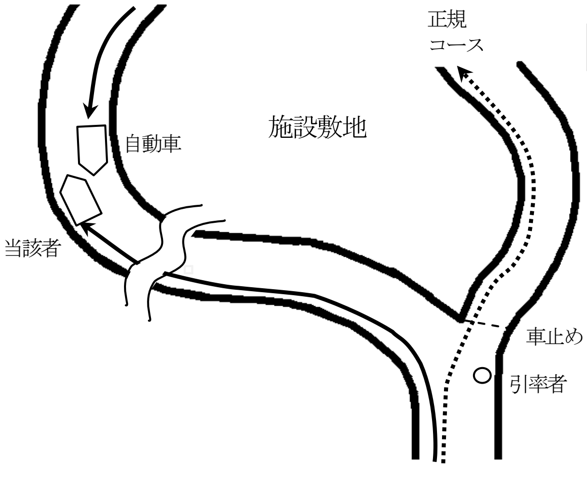
■日　　時：平成２６年７月３０日　１６時３０分

■当 該 者：小学校６年生１名（男子）

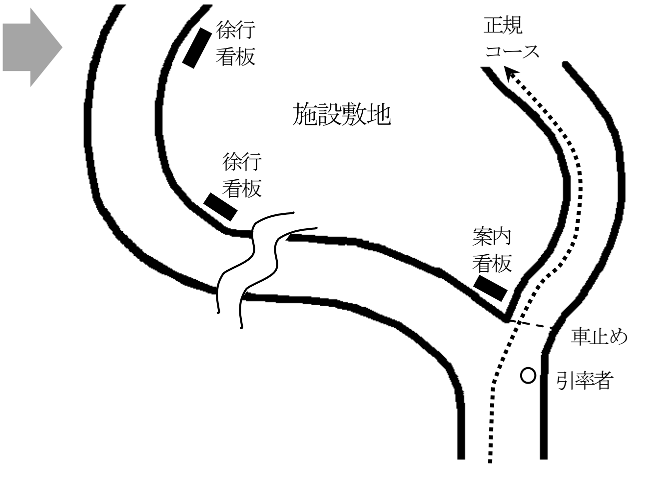
■傷病種類：外科系：捻挫打撲（捻挫）

概　要	施設の外周道でサイクリング活動を行っているときに、当該者が誤ってサイクリングコースとは違う道を進んでしまった。分岐から500mほど進んだ見通しが悪い車道上で、走っていた自動車が接触してしまった。病院で受診し、処置を受けた。
原　因	サイクリングコースにわかりにくい分岐箇所があったため、違う道に進んでしまった。 事前にサイクリングコースの全体図やポイントを示す地図を渡し、分岐点付近に引率者等が立って誘導していたが、当該者は道を間違ってしまった。
改善策	・道迷い防止のため、サイクリングコースに接する当施設敷地に看板を設置した。 ・事故現場に接する当施設敷地に、ドライバーに向けて徐行を促す看板を設置した。

（事故当時）



（改善後）



投げた輪を追い斜面で転倒

■事業分類：研修支援

■活動内容：スポーツ活動（リングリングゴルフ）

■場　　所：リングリングゴルフコース

■日　　時：平成２６年８月４日　１０時３０分

■当 該 者：小学校５年生１名（女子）

■傷病種類：外科系：切り傷（頭部・膝・右手裂傷）

概　要	リングリングゴルフは、ゴルフと同様のルールで、ホールごとに設定された的に向かってゴム製のリング（輪）を投げながらゴールを目指す活動。 当該者は、全９ホール中６番ホールまで終え、７番ホールの的を目指してリングを投げたところ、リングがコース脇の右斜面に着地し、転がり落ちていった。当該者が斜面を走って追いかけたところ、勢いがつきすぎて、飛ぶように転倒した。 医務室にて応急処置後、病院にかかり、頭部・膝・右手の縫合処置を受けた。
原　因	・現場は、今年度新たに設置したコースで、進行方向に向かって右に斜面があり、走らない・危険などの注意喚起を促す看板は設置していなかった。 ・運動神経に自信のある児童であったため、追いつけると思って走り出した。（引率者談）
改善策	・コースの変更（７番ホールは斜面に沿って設置してあったが、平面に作り変える。） ・注意喚起を促す看板の設置 ・事務室で事前の注意を促す（団体引率者から参加者に伝達） ・引率者に活動時についてもらうことをお願いする。

（屋外・登山・ハイキング・外科系）

蹴った石が落下し２人外傷

■事業分類：研修支援

■活動内容：登山・ハイキング

■場　　所：登山道

■日　　時：平成２７年５月１７日　１２時４０分

■当 該 者：中学校１年生３名（男子生徒Ａ、女子生徒Ｂ、男子生徒Ｃ）
うち負傷者２名（女子生徒Ｂ、男子生徒Ｃ）

■傷病種類：外科系：女子生徒Ｂ…捻挫打撲（右脹脛打撲）、男子生徒Ｃ…捻挫打撲（左膝挫傷、右足首打撲）

概　要	活動場所である山は、頂上と登山口の間に細い登山道が幾度も折り重なるように設けられている。 当該団体（中学校）は、長い列をなして登山道に沿って下山していた。途中で、隊列の後方にいた男子生徒Ａが石を蹴ってしまったところ、その石が落下速度を増して登山道をショートカットするように落ちていき、隊列の前方にいた女子生徒Ｂの脹脛に当たった後、さらに前方を歩いていた男子生徒Ｃの膝と足首にも当たり、２名怪我を負った。
原　因	事前指導の際に、登山活動中の落石発生は、たとえ小石であっても危険であることを伝えたにもかかわらず、男子生徒Ａが近くにあった石を蹴ってしまい、落石を生じさせたため。
改善策	登山プログラムの実施にあたっては、事前指導の際、落石を起こさないよう慎重に下山する旨、安全指導を行っていたが、以後は、具体的な事故の例として、当該の件について紹介しながら説明・指導を行い、同様の事故を未然に防ぐようにしている。

下山中に迷子

■事業分類：研修支援

■活動内容：登山・ハイキング

■場　　所：登山道

■日　　時：平成２７年5月２８日　１７：３０

■当 該 者：中学校１年生１名（女子）

■傷病種類：なし

概　要	１７時３０分、利用団体である中学校の引率教員から、登山活動が終了し、全員無事下山という報告を職員が受けた。 下山した生徒たちは、到着し次第夕食をとることとしていた。 その後、夜のプログラム時に、当該者がいないことが判明した。警察に通報後、当施設職員・当該校の引率教員で捜索した結果、２１時１５分頃、当施設職員と引率教員のグループが、今回のコースとは別の登山道からさらに大きく外れた藪の中で当該者を発見した。当該者に負傷はなかった。
原　因	・プログラム終了後、引率教員が点呼・確認をせずに、下山した生徒から食事を取らせていたこと。 ・下山途中までは引率教員が同行していたが、足場が不安定な沢を渡る際に、引率教員が沢の中に立ち１人ずつ補助して渡らせたため、生徒の列が前後に長くなってしまい、目が行きとどきにくくなったこと。 ・引率教諭は、沢を超えた後、「前の生徒についていきなさい」という指示をしていたが、当該者は、１５時３０分頃に沢を渡った後、体力がなく進むのが遅かったため、前を歩く生徒を見つけることができなかったこと。 ・コース中に分岐点が１か所あり、そこに引率教員等がいなかったため、当該者が想定外の方向へ歩いてしまったこと。 ・藪の中にいた理由は、ルートの途中で、雨の流れ等で地面が削られた箇所があり、そこが藪方向に歩いて下れるような構造になっていたため、山を下りたい一心で藪の中に進んでしまったと思われること。
改善策	当該事故以後、登山プログラムを実施予定の団体に対し、今回の事故事例を説明し、登山途中の休憩時や下山時の点呼等の確認作業の徹底や引率者の適正な配置方法等を指導し、安全確認の強化に努めた。

スノーケリング中に岩場で脚を切る

■事業分類：研修支援

■活動内容：水辺の活動（スノーケリング）

■場　　所：海岸・海浜

■日　　時：平成２７年6月２４日　１０時１５分

■当 該 者：小学校５年生１名（男子）

■傷病種類：外科系：切り傷

概　要	スノーケリング活動中、岩場に近づき休憩しようとしていた。 バディ（２人組行動）の相手が動き出したので、あわてて付いていこうとしたところ、岩場に脚が当たり、右腿外側が 10cm 程度切れてしまった。
原　因	・海の活動中に岩場に近づく事についての危険性については説明をしていたが、危険性についての内容を完全に理解してもらえていなかったため。 ・海の活動中に疲れてしまった時にとる行動について、説明が不足していたため。 ・海の活動中のバディでの行動について、説明が不足していたため。
改善策	・海の活動中の危険な場所について、利用者が理解出来るように過去の事故例等の説明を行い、理解を徹底させる。 ・活動中に疲れた時の行動について確実に理解出来るように説明を徹底する。 ・バディ間の意思疎通をしっかりと行うように説明を徹底する。

トイレ清掃時にマムシにかまれる

■事業分類：研修支援

■活動内容：その他（清掃中）

■場　　所：屋外：その他（屋外トイレ）

■日　　時：平成２７年８月２３日　８時００分

■当 該 者：高校生１名（男子）

■傷病種類：外科系：生物系

概　要	屋外活動場所にある男子トイレを清掃中に、右手中指の付け根をマムシにかまれた。 団体に同行していた看護師が右手首を縛り、引率者の車で施設近隣の病院へ行った。 そこで応急処置・点滴治療を受け、午後２時まで病院にて様子観察したのち、生命の危機・後遺症の心配は無いと診断され、当該者は病院から自宅に直帰することとなった。 帰宅後、腫れがひどくなったため自宅近隣の病院を受診し、入院となった。
原　因	マムシ発見時に、清掃用具等でトイレから追い出そうとしたのではないかと考えられる。
改善策	事故直後、マムシを捕獲。その後、周辺の落ち葉や泥を職員全員で掃除し、風通しを良くした。その後もマムシの出た所は点検を重点的に行った。 事務室に、ヘビ撃退スプレーを常備した。 入所団体には、蛇を目撃しても安易に触らず事務室に連絡してもらうよう入所時の説明に加えた。

斧先が外れ手に当たり挫創

■事業分類：研修支援

■活動内容：野外炊事

■場　　所：野外炊飯場

■日　　時：平成２７年１０月２８日　１０時４５分

■当 該 者：小学校５年生１名（男子）

■傷病種類：外科系：切り傷（挫創）

概　要	野外炊飯の活動中、斧で薪を細かく割る際、斧先がはずれてしまい、薪を支えていた右手にあたり受傷した。当該者は左利きのため、左手に斧を持っていた。
原　因	薪を割る作業を繰り返しているうちに、斧先が緩んだ状態となったにも関わらず、作業を続けたことにより発生した。 引率者及び職員は、薪割り作業中は近くにいなかったため、斧先が緩んだ事に気がつかなかった。また、児童へ斧の使い方自体の指導は行っていたが、斧先が緩んだ場合どのようにすれば良いか指導していなかった。
改善策	刃物等を使用する活動の時は、薪割り作業を引率者のみが行うのか、それとも子供も体験するのか、事前確認を徹底する。 職員は、引率者及び参加者に対し、直接野外炊事の指導を行う。 子供が薪割り作業を行う場合は、職員が薪に火が付くまで見張ることとし、少人数（最大３人）ずつ指導することとした。 活動用具は、定期的な点検及び補修を行い、刃物に不具合が見つかった場合は、使い続けさせず職員に預けてもらうことを徹底する。

そりすべりで衝突・転倒、左手強打

■事業分類：研修支援

■活動内容：雪中活動

■場　　所：スキー場

■日　　時：平成２８年２月７日　１１時３０分

■当 該 者：小学校５年生

■傷病種類：外科系：骨折（骨端線損傷）

概　要	当該団体は、子供会のグループで訪れ、スキー場においてそり遊びをしていた。当該者が搭乗したそりは、後方を滑っていた他の子供のそりと衝突・転倒し、当該者は左手を強打した。職員は当施設付近の病院を紹介し受診をすすめたが、病院が混んでおりバスの出発時間に間に合わないという理由から、帰宅後当該者の地元の医療機関を受診し、骨端線損傷及び打撲の診断を受けた。
原　因	以下の事項が考えられる。 ・当該者と加害者のそりを、勝手に紐で連結して滑っていたこと ・後方を滑っていた児童との声かけが不十分であったこと
改善策	そり遊びを行う団体へ以下の注意事項を説明する。 ・そり滑りの際は、そりを連結することなく、前方と後方の距離を十分にとること。 ・滑り降りる場所と歩いて上る場所を分け、安全面に配慮する。

Ⅲ. 資料

平成27年度　傷病発生一覧表【屋内・外科系】

【屋内】宿泊・日帰り利用（人）	外科系																
	擦過傷	切り傷	とげ	皮膚科系	鼻血	火傷	靭帯系	捻挫打撲	生物系	突き指	骨折	筋肉疲労	脱臼	眼科系	左記以外の痛み	その他	計
入所前	4	1	0	0	0	0	1	0	3	0	1	1	1	1	1	0	14
食事時間	0	2	0	0	0	1	0	3	2	0	0	0	0	2	0	0	10
入浴時間	1	9	0	1	4	1	0	7	0	0	0	0	0	0	1	2	26
就寝時間	1	1	0	3	2	0	0	13	13	0	2	1	0	4	1	1	42
研修・学習・文化活動	3	2	0	2	10	1	1	16	2	0	1	3	0	4	0	2	47
クラフト活動	1	7	5	0	0	10	0	1	2	0	0	0	0	0	2	0	28
スポーツ活動	7	10	0	2	2	1	9	78	6	11	9	2	5	1	8	6	157
キャンプファイヤー	0	1	0	0	0	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	4
オリエンテーリング・ウォークラリー	0	0	0	0	0	0	0	1	2	0	0	0	0	0	1	0	4
移動中	4	6	1	0	0	0	0	16	0	0	0	0	0	0	1	2	30
自由時間	9	15	3	8	1	1	0	28	13	5	6	1	1	3	0	4	98
その他（上記以外）	1	2	0	2	1	0	0	2	2	1	1	0	0	1	1	0	14
不明・無記入	1	1	0	0	1	1	0	2	4	0	0	0	0	1	0	1	12
【屋内】計	32	57	9	18	21	17	11	168	50	17	20	8	7	17	16	18	486

平成27年度　傷病発生一覧表【屋内・内科系】

【屋内】宿泊・日帰り利用（人）	内科系																		
	感冒	頭痛	感染症	腹痛	乗り物酔	嘔吐	平均障害	体調不良	熱中・脱水	下痢	吐き気	喘息	呼吸系の発作	生理痛	アレルギー	痙攣症状	精神疾患	左記以外の痛み	その他	計
入所前	38	11	7	10	27	5	4	10	2	5	1	0	0	1	1	0	0	1	4	127
食事時間	34	16	3	32	0	47	2	23	1	1	17	1	1	4	4	1	2	0	1	190
入浴時間	7	1	0	0	0	0	1	1	0	0	1	1	1	0	0	0	0	0	1	14
就寝時間	113	21	16	20	0	22	3	18	3	1	8	8	0	1	2	1	1	1	7	246
研修・学習・文化活動	138	78	5	50	0	16	20	71	11	3	34	3	3	10	6	2	2	3	7	462
クラフト活動	5	5	0	2	0	1	4	2	0	0	3	0	0	2	0	0	0	0	0	24
スポーツ活動	51	33	4	12	0	9	5	23	11	0	11	0	5	5	0	0	0	0	0	169
キャンプファイヤー	1	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	4
オリエンテーリング・ウォークラリー	3	2	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7
移動中	5	2	0	3	2	2	1	3	0	0	1	0	1	0	0	2	0	0	0	22
自由時間	108	35	3	33	0	31	5	15	3	0	15	4	2	1	2	1	0	0	4	262
その他（上記以外）	27	11	8	15	0	6	0	20	2	3	10	0	1	3	0	0	0	2	3	111
不明・無記入	58	11	17	15	1	4	3	16	2	1	8	0	2	1	0	0	0	0	2	141
【屋内】計	588	226	63	192	30	143	49	205	35	14	109	18	16	28	15	7	5	7	29	1,779

平成27年度　傷病発生一覧表【屋外・外科系】

【屋外】宿泊・日帰り利用（人）	外科系																
	擦過傷	切り傷	とげ	皮膚科系	鼻血	火傷	靭帯系	捻挫打撲	生物系	突き指	骨折	筋肉疲労	脱臼	眼科系	左記以外の痛み	その他	計
入所前	0	0	0	0	0	1	1	2	2	0	0	0	0	1	1	0	8
登山・ハイキング	7	10	3	9	0	0	1	42	54	0	3	1	0	2	2	0	134
キャンプファイヤー	1	1	0	1	0	6	0	3	8	0	0	0	0	2	1	0	23
野外炊事	5	29	0	2	0	42	2	13	63	1	0	2	0	0	2	1	162
ｱﾄﾞﾍﾞﾝﾁｬｰﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ	0	0	0	0	0	3	0	9	7	0	1	1	0	0	0	0	21
スポーツ活動	12	10	2	2	0	0	3	38	11	2	6	5	2	1	5	4	103
つどい（朝・夕）	2	0	0	1	2	0	0	2	21	0	0	0	0	0	0	0	28
雪中活動	1	10	0	0	0	0	3	61	0	1	0	1	1	1	0	1	80
水辺の活動	2	7	0	2	0	0	0	10	12	1	2	0	0	0	1	0	37
ｵﾘｴﾝﾃｰﾘﾝｸﾞ・ｳｫｰｸﾗﾘｰ	4	10	0	4	1	0	0	33	22	0	3	1	0	1	1	0	80
移動中	12	1	1	1	4	0	2	16	6	0	3	1	0	0	1	1	49
自由時間	10	5	1	0	1	1	0	11	33	6	6	1	0	0	0	0	75
その他（上記以外）	5	2	2	4	3	5	0	14	7	1	0	1	0	0	2	3	49
不明・無記入	0	0	0	0	2	0	0	1	16	3	0	0	0	0	0	0	22
【屋外】計	61	85	9	26	13	58	12	255	262	15	24	14	3	8	16	10	871

平成27年度　傷病発生一覧表【屋外・内科系】

【屋外】宿泊・日帰り利用（人）	内科系																			
	感冒	頭痛	感染症	腹痛	乗り物酔	嘔吐	平均障害	体調不良	熱中・脱水	下痢	吐き気	喘息	呼吸系の発作	生理痛	アレルギー	痙攣症状	精神疾患	左記以外の痛み	その他	計
入所前	4	1	0	0	9	1	0	2	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	18
登山・ハイキング	37	34	0	6	0	5	0	7	4	1	7	0	1	0	1	1	0	1	2	107
キャンプファイヤー	3	1	0	0	0	0	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7
野外炊事	18	10	0	11	0	5	5	13	7	0	7	3	0	3	2	0	0	0	0	84
ｱﾄﾞﾍﾞﾝﾁｬｰﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
スポーツ活動	22	10	1	5	0	3	5	15	31	3	3	1	3	2	0	0	0	0	0	104
つどい（朝・夕）	11	6	0	5	0	4	7	16	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	51
雪中活動	25	7	11	6	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	50
水辺の活動	2	6	0	4	6	2	1	3	11	0	4	0	1	0	0	0	0	0	0	40
ｵﾘｴﾝﾃｰﾘﾝｸﾞ・ｳｫｰｸﾗﾘｰ	15	8	0	12	0	2	3	17	21	0	2	1	2	1	0	1	0	0	1	86
移動中	5	0	0	1	5	1	0	1	1	0	2	0	0	0	0	1	0	0	0	17
自由時間	2	5	0	3	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	13
その他（上記以外）	14	8	0	2	0	2	1	5	4	0	1	2	2	3	1	0	0	0	0	45
不明・無記入	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3
【屋外】計	158	96	12	55	20	25	24	86	80	4	28	7	9	10	4	3	0	1	5	627

屋内・屋外	擦過傷	切り傷	とげ	皮膚科系	鼻血	火傷	靭帯系	捻挫打撲	生物系	突き指	骨折	筋肉疲労	脱臼	眼科系	左記以外の痛み	その他	計
外科系	93	142	18	44	34	75	23	423	312	32	44	22	10	25	32	28	1,357

屋内・屋外	感冒	頭痛	感染症	腹痛	乗り物酔	嘔吐	平均障害	体調不良	熱中・脱水	下痢	吐き気	喘息	呼吸系の発作	生理痛	アレルギー	痙攣症状	精神疾患	左記以外の痛み	その他	計
内科系	746	322	75	247	50	168	73	291	115	18	137	25	25	38	19	10	5	8	34	2,406

総計　3,763

事故データ・事例集

平成２９年１月

独立行政法人国立青少年教育振興機構教育事業部企画課

〒１５１－００５２　東京都渋谷区代々木神園町３番１号
ＴＥＬ　０３－６４０７－７７２１、７７２２、７６８６、７６８７
ＦＡＸ　０３－６４０７－７６９９
Ｈ　Ｐ　http://www.niye.go.jp/